



Splunk リリースノート

バージョン: 4.0.3

作成日時: 2009 年 8 月 26 日 午前 10 時

Copyright Splunk, Inc. All Rights Reserved

無断複写・複製・転載を禁ず

目次

最新情報	1
新 4.0 版の紹介	1
大規模に拡大可能な検索	1
柔軟なユーザーインターフェース	4
Splunk app フレームワーク	8
Splunk 管理	8
Splunk の新しいレポート機能	10
Windows 用 Splunk の改善	11
海外対応 Splunk	11
拡張可能なアラート	11
分散型 Splunk の強化	12
新しいセキュリティ管理	13
検索言語とナレッジ拡張子	14
アクティブディレクトリのサポート	16
このリリースに関する既知問題	18
既知問題	18
CLI への変更	21
バージョン別変更ログ	23
4.0.1	23
4.0.2	23
4.0.3	24
奥付	26
奥付	26
Babel	26
Beaker	26
bzip2	27
CherryPy	28
decorator	28
FormEncode	29
httplib2	33
ICU	34
jQuery	34
Libarchive	34
lxml/ElementTree/XML Toys ライブラリ	35

Libxml2	36
Libxslt	36
Mako	37
OpenLDAP	38
OpenSSL	39
Pcre	41
Pyopenssl	42
Python	61
pywin32	65
SWFObject	70
Sqlite	70
wmi	70
Xmlwrapp 050	70
Zlib	71

最新情報

新 4.0 版の紹介

新 4.0 版の紹介

Splunk 4.0へようこそ！このページは、Splunk 4.0版向けに新しく開発された機能を一覧にして紹介しています。以下のリンクをクリックして、最新版Splunkの優れた点について詳しい情報をご覧ください。

- マッシュブ・スケーラブル検索
- 柔軟なユーザーインターフェース
- Splunk app フレームワーク
- Splunk 管理
- 新規 Splunk レポーティング
- Windows 上での Splunk 使用改善
- 海外対応 Splunk
- スケーラブルアラート
- 分散型 Splunk 処理
- 新規セキュリティー管理
- 検索言語とナレッジ拡張子
- アクティブディレクトリインデックス

最新メンテナンスリリースで何が修正されたか？

目次の左側にあるバージョン別変更ログをご覧ください。

大規模に拡大可能な検索

大規模に拡大可能な検索

膨大なデータセットの解析

この機能を使用すると、ユーザーは Splunk の新しいユーザーインターフェースを使って何億もの結果やテラバイト単位のデータの全域からレポートを作成することができます。Splunk の旧バージョンでは、ユーザーはコマンドライン(ディスパッチコマンド)から 5 万分の結果検索が可能でしたが、この機能が改善されると共に、新しいユーザーインターフェースへ組み込まれました。新しいユーザーインターフェースに統合されたことにより、ユーザーは検索の完了を待つ必要がなくなりました。検索がリアルタイムで実行されている間も、結果と交信したり、フィールドの追加と削除、結果ページの閲覧が可能になりました。

スケーリングに関連したその他の改善内容

- 複数のインデックスから検索可能
- インデックスを圧縮型 csv ファイルへインポート/エクスポート可能

- Splunk の「ライブ」データファイルのコントロールが改善され、時間ベース設定によりさらに精度の高いデータ保持管理を達成

Splunk の高性能検索ツールについての情報は、ユーザーマニュアルの"検索について"を参照ください。

新しい高応答性のユーザーインターフェース

この機能は、完全にデザインされ直され、さらに知覚的になった Splunk のコア検索インターフェースです。

以下は機能一覧です。

- 完全に再デザインされた Splunk のコア検索インターフェースのルック・アンド・フィール
 - ◆ イベントをよりすばやくレンダリングし、検索進行状況を即座にフィードバック
 - ◆ 検索実行中、フィールドおよび最高値をプレビュー
 - ◆ 検索実行中、統計報告をプレビュー
 - ◆ タイムラインからデータをズームイン/アウトする機能の改善
 - ◆ 高度な時間範囲セレクターを用いてユーザーが手動でサブ秒レベルの時間範囲と相対的時間範囲を選択可能
 - ◆ 新型フィールドピッカーを用いて何千ものフィールドから素早く検索し、周波数別にフィールドをソートし、イベント内のフィールドの順番を設定可能
- より高度でダイナミックな形式の検索をサポート(簡単 UI カスタマイズ機能もご覧ください)。
- 複数検索「ビュー」およびダッシュボードへの速やかなアクセス(簡単 UI カスタマイズ機能もご覧ください)。
- 大量の保存済み検索をフォルダへ整理する機能
- 保存済み検索に説明を追加する機能
- ローフォーマットまたはテーブルとしてイベントを表示可能
- 検索ボックス内部のタイプ予測の改善(高速化)
- 検索ボックス内部からさらに詳しい予知検索コマンドヘルプ
- イベントに表示されるライン数に対するコントロールの改善
- タイムラインのリニアとログスケール間の切り替え可能
- イベントとタイムラインにサブ秒単位でサポート

再デザインされた Splunk のコア検索インターフェースの使用について詳しくお読みください。

ジョブ管理とコントロール

この機能は、ユーザーおよび管理者により並列かつ長い検索の実行を管理できる柔軟性を与えます。

Splunkの新しいジョブ管理ユーザーインターフェースを使うと、ユーザーおよび管理者は以下ができます。

- 検索ジョブの表示、停止、終了準備、キャンセル
- ジョブのリストを確保し、ジョブタイプ、所有者、ステータス、有効期限別に並べ替え
- 現在実行中または以前実行したジョブに切り替え、さらにそれを最前面へ移動
- 既存のジョブの保存と削除
- 以前完了した検索へのアクセスと再度検索をしないレポートの作成

- 全 Splunk ユーザーのジョブの管理(管理者のみ)

さらに、検索ジョブを別のプロセスで実行できるようになり、Splunk インデクサとは独立して検索を実行できます。管理者は、ユーザーのオペレーティングシステムから直接個々の検索ジョブにアクセスできます。

検索ジョブの管理について理解を深めてください。

複雑検索の高速化

この機能は、Splunk の検索速度をバックエンドの大幅改善で実現し、さらに複雑な検索が可能になりました。改善内容は以下のとおりです。

- 複雑な論理式とさらに効率の良いキー値抽出に対応した最適化により、10 倍も速く(検索範囲による)結果を取得します。
- Splunk のトランザクションプロセッサは以前のバージョンに比べて通常最大 100%高速化され、何億ものイベント処理と分散環境での効率が上がっています。
- クラスタ化したファイルシステム内の splunk スタートアップスピードを改善しました。

分散型検索の高速化

この機能は、分散型環境における Splunk の性能をバックエンドの大幅改善により実現しています。改善内容は以下のとおりです。

- Splunk サーバー全体の検索負荷をより均等に分散し (マップリデュース改善)、検索速度を大幅に速めました。
- ユーザーは、検索言語を使って検索する一連の分散型サーバーを指定できます。
- トランザクション処理は、分散型アーキテクチャ全域に渡って何億ものイベントに対応できるよう拡大されました。
- 分散型検索の使用について詳しくお読みください。

利点

ユーザーの場合

- 臨機応変に、膨大な量の検索結果(何億もの)を長期間(月別、年別など)の範囲で統計解析やサマリー報告を作成します。
- 大量データセットを 1 回の検索で直接報告する機能により、ファイアウォール、ウェブトラフィック、ビジネス・インテリジェンス・データなどの膨大なソースの解析を簡略化します。
- 複数の並列検索を実行し、その間を交互に切り替える機能により、識別や修正にかかる時間の問題を改善します。
- 検索を停止または終了準備することによりユーザーは、検索の完了を待つ必要なく、中間結果を解析できます。
- 以前の検索結果へアクセスすることにより、長期間実行した検索を後日報告したり、それを他のユーザーと共有したりなどの柔軟性をユーザーにもたらしめます。
- 検索が完了する前に検索結果の解析を始めることができるため、より速やかな問題解決やデータ相関性などが可能となります。

- 新しいフィールドピッカーを使うと、大量で複雑なデータセット環境に組み込まれた何百ものフィールドから検索および選択が可能になります。
- より速やかなイベントローディングおよびイベントプログレスモニタが、全体的な製品の相互作用を改善します。
- ユーザーは、検索記述を割り当て、タグを使って整理することにより、関連した保存済み検索をグループ化したり、高速検索することができます。
- 高度なタイムピッカーは、相対的時間範囲 (今日、今週、前営業週など)、時間範囲の指定 (サブ秒単位サポート) など、高度な検索言語の構文を知らなくてもユーザーが選択できます。
- さらに改善されたタイプ予測や検索コマンドのヘルプを活用すれば、新規ユーザーでも Splunk コマンドを容易に理解できます。
- 高速検索を実施することにより、問題解決にかかる時間を短縮します。
- トランザクションコマンドの速度化により、さらに大量のデータセットに対してトランザクション解析を広範囲で実行できます。
- より速やかな分散型検索を体験することによって、広域で地理的に分散した環境で発生する問題の解決にかかる時間を短縮します。
- ユーザーベースで、分散型検索のデフォルトの設定をさらに改善し、不要なサーバー負荷を減らし、検索対応時間を改善します。
- 「トランザクション」コマンドの速度改善により、より大量なデータセットに対してトランザクション解析を広範囲に行えます。

責任者の場合

- Splunk データを他のアプリケーションで使用するためのインポートおよびエクスポートを容易することにより、Splunk インデックスからのデータの追加、編集、削除も簡単です。
- 時間で Splunk が「ライブ」データを認識するコントロール機能により、管理者による Splunk のディスク使用やデータ保持の管理が容易になりました。
- 多くの Splunk サーバー、ユーザー、検索に対するサーバ負荷を管理します。
- OS レベルで個々の検索を管理し、ジョブ優先順位を割り当てます。

柔軟なユーザーインターフェース

柔軟なユーザーインターフェース

フレキシブルダッシュボード

この機能を使用すると、ユーザー、管理者、アプリケーションデベロッパーによるカスタムダッシュボードの作成、ダッシュボードの共有、ダッシュボードオブジェクトのアクセスを特定のユーザーに限定することが可能になります。

以下は機能一覧です。

- 全く新しいダッシュボードを作成するユーザーインターフェース
- ダッシュボードに以下の幅広い種類のオブジェクトが追加されました

- ◆ 数千もの値に拡張可能なソート可能なリストのリンク (保存済み検索、ホスト、ソースタイプ、フィールド値など)
- ◆ チャート、表またはローイベントのセット
- ◆ 赤・緑・黄の閾値表示
- ◆ カスタムテキストまたは html 対応
- ◆ Iframe と互換性のあるカスタムアプリケーションまたは外部ウェブからのデータ処理
- ダッシュボードのレイアウト調整、個々のダッシュボードオブジェクトの行および列の場所指定
- ダッシュボードオブジェクトの高さおよび幅の指定
- 全ダッシュボードのブラウザリフレッシュ速度の設定
- ダッシュボードモジュールで以前計画した検索をスキップするよう設定して、高速にロードするダッシュボードを作成
- ラジオボタン、ドロップダウン、フォーム検索などの Splunk ダッシュボードモジュールを使って、インタラクティブかつダイナミックなダッシュボードを作成

さらに、今回からダッシュボードは、Splunk の新しい役割ベースの個性向け機能の一部となりました。

以下は機能一覧です。

- ユーザーおよび管理者は、Splunk ユーザーまたはロールとダッシュボードを共有し、読み込み専用または読みこみ/書き込みアクセスを設定できます。
- 管理者はユーザーベースでダッシュボードへのアクセスを特定のユーザーに限定できます。

Splunk Web の基本ダッシュボードの作成方法についてユーザーマニュアルを詳しくお読みください。

さらに複雑なダッシュボードの作成および使い方はデベロッパーマニュアルをご覧ください。

簡単 UI カスタマイゼーション

この機能には、アプリケーションの開発および管理者が Splunk Web を再設定できるようにした、完全に再デザインされたユーザーインターフェースのフレームワークが装備されています。この機能では、開発者が設定ファイルを編集するだけで、自由に Splunk のインタフェースレイアウトおよび相互作用を再設定できる Splunk 「ビュー」 のコンセプトを導入しています。

アプリケーションの開発者と管理者は、以下が実行できます。

- UI モジュール(検索バー、タイムライン、フィールドピッカー、タイムピッカー、イベントビューア、ドロップダウンボックス、チャートおよび表などを含むモジュール)を追加または削除することによる新しいビューの作成
- モジュールを再整理(横に縦に)して、各ビューのカスタムレイアウトの作成
- 指定モジュール(チャートや表など)のサイズ変更
- カスタムテキストおよび html モジュールの作成
- ドロップダウンボックス、ジオボタンなどのセクターにより有効となる定義済み検索を含むインタラクティブビューの作成
- 定義済オプションおよびダイナミックに生成されたリストを実装するカスタムフォーム検索の作成

- 検索インターフェースによる新しいインプットの設定など管理者タスクの実行

ビューに加えて、アプリケーションの開発者がアプリケーション作成時に、Splunk の新しいメニューバーを設定できます。

- コアサーチインターフェースからダッシュボード、ビュー、保存済み検索またはレポートなどのメニューアイテムを追加および削除
- リンクのセットなどのカスタムメニューアイテムを Splunk 以外のサイトや、Splunk 内の保存済み検索やその他ビューのカスタムセットへリンクしたドロップダウンメニューに追加

アプリケーションのルック・アンド・フィールは、アプリケーション開発者および OEM がカスタマイズ可能です。

- カスタム CSS テンプレート/スキンを作成することにより、メニュー項目の色、インターフェースのフォント、ライン、色の変更可能
- カスタム CSS テンプレート(Splunk の旧バージョンのイベントデコレーションと同等)を使用してイベントタイプを基にイベントをハイライト
- Splunk のロゴを調整および削除することによる、各社適用のアプリケーションのカスタマイズ
- Splunk の REST API の総合セットを活用したビューおよびアプリケーションに組み込み可能なカスタムモジュールの書き込み

デベロッパーマニュアルにあるカスタムビューの構築について詳しくお読みください。

アプリケーションナビゲーター

この機能を使うと、Splunk のユーザー、管理者、アプリケーションの開発者方は、Splunk apps を別個のエンティティとしてビューおよび操作することが可能になります。

- ユーザーは新しい Launcher インターフェースを使用して、Splunk にロードされたアプリケーションと別のアプリケーション間の切り替えを簡単に行うことができ、一連のビュー、保存済み検索、ダッシュボード、インプット、またはアプリケーションに関連したナレッジを自動的にロードできます。
- 開発者は、アプリケーションに属するオブジェクトおよび Splunk のコアサーチインターフェースとは別に表示されるアプリケーションのルック・アンド・フィールが指定できます。
- 管理者は、アプリケーションの有効/無効を指定し、ユーザーベースで、特定のアプリケーションへのアクセスを限定できます。

利点

ユーザーの場合

- アプリケーション間のコンテキストを切り替えて、現在のアプリケーションに関連したもののみを表示するため、ユーザーは関連ある保存済み検索、ダッシュボード、フィールドなどの検索が非常に容易になりました。
- 各ダッシュボードモジュールに対してカスタマイズ可能なリフレッシュ速度により、ダッシュボードのローディングが速くなりました。
- 保存済み検索、ホスト、ソース、フィールド値などのカスタムリストを作成することにより、Splunk に保存されているデータにワンクリックでアクセス可能になりました。

- アルファベット順または使用頻度順にリストを並べ替えできます。
 - ◆ 例えば、ユーザーリストを素早くソートすることにより、システム上で最もアクティブなユーザーを検索したり、1回のクリックにより検索言語またはフィールドタイプの知識がなくても回答を得たりすることができます。
- カスタマイズ可能なダッシュボードレイアウトにより、ユーザーは、チャートを横に並べて比較して素早く問題を特定できます。
- カスタム作成されたダッシュボードを他のユーザーと共有

責任者およびアプリケーション開発者の場合

- 1つの Splunk インスタンスから複数の Splunk アプリケーションを管理し、粒状レベルでユーザーアクセスを特定のアプリケーションに限定できます。
- ニーズの異なる Splunk ユーザーに対して異なる検索ビューをカスタマイズします。例えば、
 - ◆ ヘルプデスクのサポート担当者には、フォーム検索専用のビューを提供し、従来の検索ボックスおよびフィールドピッカーは使えないようにする。
 - ◆ マーケティング担当者には、一連の保存済み検索からユーザーが選択できるドロップダウンを提供し、イベントを表示せずにその下に対応するチャートを表示するドロップダウンを持つビューを与えます。
 - ◆ 利用できるオプションは無限にあります！
- 特定のユーザーが表示できるコンテンツを基にフィルタを適用してより詳細なビューを作成する、または新しいビューの作成により機能(フリーフォーム検索など)を削除することで相互作用を制限します。
- ユーザーインターフェースおよびメニューを簡素化し、ユーザーをガイドするカスタムテキスト/html モジュールを含めることにより技術的に詳しくないユーザーが使いやすい Splunk に改善します。
- アプリケーションをユーザー特有の検索設定およびスタイルに合わせて作成します。例えば、スクリプト入力、フィールドの抽出、イベントタイプ、タグ、複数検索ビュー、カスタムアプリケーションメニュー、およびスキンなどを含めてカスタマイズしたアプリケーションを作成します。
- Splunk 内で異なるタイプのユーザーに対して安全かつカスタマイズされたダッシュボードを作成します。
 - ◆ 例えば、アナリスト、マーケティング、経営陣に対して異なるダッシュボードを作成します。
- 別の社内アプリケーションまたは外部ウェブからのデータを Splunk へ簡単に統合することにより、さらにデータを統合したビューをユーザーに提供します。
- 権限のないユーザーがダッシュボードを編集しよう防止します。

OEM の場合

- カスタムモジュールを作成して Splunk インターフェースに追加、Splunk のスキンまたはロゴの修正、または、様々なタイプの顧客に対して検索「ビュー」を作成することにより、Splunk と製品を統合を図ります。

Splunk app フレームワーク

Splunk app フレームワーク

アプリケーションビルダ

アプリケーションの作成およびアプリケーションの管理用に、コマンドラインおよびユーザーインターフェースコントロールが Splunk に追加されています。いずれのモードで行われるユーザーアクションに対して、ユーザーはアプリケーション用のテンプレートを作成できます。その作成操作がディレクトリをスタブアウトし、ユーザーが Splunk オブジェクトを追加、さらにアプリケーションの有効、無効、インストールまたは削除ができます。ユーザーは、デプロイメントサーバーを通して、将来性のあるエンタープライズデプロイメントのためのアプリケーションをパッケージすることができます。パッケージはさらにアプリケーションのバージョン管理を簡素化します。

以下は新機能です。

- アプリケーションディレクトリの自動作成
- CLI または UI からアプリケーションをインストール、削除、有効、無効
- デプロイメントまたはアプリケーション管理用のアプリケーションパッケージ化
- カスタム http エンドポイントの追加する機能

アプリケーション中心のインストール

Splunk の新しい拡張可能なインターフェースは、各アプリケーションで独自のカスタム Splunk 環境を作ることを可能にします。アプリケーション中心のインストールによりアプリケーション別にインストールビューを提供し、管理者にその設定を促し、即座に使いやすく設定できます。

利点

アプリケーションの作成、管理およびデプロイメントは、Splunk マネージャーによりさらに簡単に管理しやすくなりました。1つのUIでアプリケーションの作成、開発、更新が可能です。管理者はデプロイメントサーバー経由でパッケージされたアプリケーションをデプロイすることにより全社対応のアプリケーションデプロイメントの簡素化が図れます。さらに、アプリケーションを直接インストールできるため、すべての必要条件をユーザーが経験する新しいインストールと合わせる事が可能となります。

デベロッパーマニュアルでアプリケーションの作成について詳しくお読みください。

Splunk 管理

Splunk 管理

新しい管理用ウェブインターフェース

この機能には、「Splunk 管理」と呼ばれる新しい管理用ウェブインターフェースが含まれます。これにより管理者は、システム設定、サーバコントロール、ライセンス管理、分散型サーチ設定、システムロギング設定管理、メールアララー

ト設定、インデックス、データインプット、フォワーディングおよび受信、認証方法、ユーザー/役割設定に対するユーザーインターフェースをベースにしたコントロールを拡張できます。

さらに、ユーザーおよび管理者の双方に、検索、レポート、イベントタイプ、フィールド抽出、ビューなどの Splunk オブジェクトを管理できる能力が加わり、容易に表示、編集、保存、許可の設定ができるようになりました。これらの設定に対するコントロールは、ユーザー/役割許可およびアプリケーションコンテキストを基にしています。

拡張可能な管理

Splunk 管理は、REST API の上に形成され、Splunk のバックエンド設定に関するすべてのコミュニケーションを処理し、Splunk 管理ユーザーインターフェースに表示する情報を提示します。ユーザーは、以下の Splunk の管理インターフェースを拡張および置換できます。

- Python および Splunk の設定ファイルシステム経由で新しい機能を Splunk の API に追加する
- Splunk の REST API および Splunk の設定ファイルシステムと連動するユーザーのアプリケーション用に設定 XML ファイルを形成する
- Splunk 管理内のひとつまたはすべてのフォームをユーザー独自のフォームと置き換え、それらをアプリケーションでバンドルする

簡素なオブジェクト管理

検索、レポート、イベントタイプ、フィールド抽出、ビューなどの Splunk オブジェクトをユーザーインターフェースから簡単に表示、編集、保存できるようになりました。

管理者は、精度ベースの読み込み/書き込み許可を設定できるため、オブジェクトのコントロールを委任でき、ユーザーはアクセス許可のある Splunk リソースのみを閲覧および管理することができます。

管理マニュアルの Splunk 管理の理解に関する説明をお読みください。

新しい管理用 CLI インターフェース

Splunk は、新しい管理用コマンドラインインターフェースを導入しています。このインターフェースは、リモート管理コントロール、適用可能な場合に標準 REST API インターフェースなどのリモートアクセスを追加する標準コマンドライン・フレームワークです。また、CLI には多くの新しいコマンドを追加され、新しい製品機能およびコントロールをサポートします。

利点

ユーザーは、新しい Splunk 管理を使用して各自の Splunk リソースをわかりやすく容易に表示および管理できます。検索、レポート、イベントタイプ、フィールド抽出、ビューなどの Splunk リソースを簡単に表示、編集、保存できます。サーバー設定、タイプ別の Splunk オブジェクト、アプリケーションをグループ化することにより、ユーザーの使用も簡単になりました。ユーザーは、アクセス権がある Splunk リソースのみを閲覧できるため、ユーザーの利便性も向上します。

Splunk の新しいレポート機能

Splunk の新しいレポート機能

レポートビルダ

この機能は、ローイベントの解析、統計表の作成、チャートの作成を行うために完全に再デザインされたグラフィックインターフェースを装備しています。検索結果から報告するデータを選択する、頻繁に使用される統計演算子でデータを変換する、図表またはチャートのいずれかでデータをフォーマットおよび表示するためのプロセスを順を追ってユーザーに提供します。以下は機能一覧です。

- 検索結果より直接フィールドを素早く選択して、調査しながらチャートや表を作成
- 高度な検索コマンドを知る必要なく、グループ化、頻度計算、合計、平均、最大、最小、標準偏差、相関などのイベントに対して高度な統計的演算を実行
- レポートを実行しながら結果およびチャートをプレビュー
- 数種類の定義済みレポートタイプから選択して、トップ値、長期傾向、点描画分布、相関データをすばやく表示
- 改善されたフラッシュベースのチャートエンジンにより、棒グラフ、カラム、エリア、線、パイ、散布図など各種チャートをより素早くレンダリング
- 軸ラベル、タイトル、凡例配置、メモリ(対等、対数など)、X 軸および Y 軸範囲、インクリメント設定など直接ユーザーインターフェースから設定
- ユーザーインターフェースから直接データシリーズを追加および削除
- 大小色付けされたデータ値を持つ「heatmap」ビューで表を表示

レポートビルダの使い方については、ユーザーマニュアルを詳しくお読みください。

レポートの印刷

この機能では、以下が行えます。

- ウェブブラウザ(WYSIWYG)からプリント可能なレポートを表示
- ウェブブラウザからレポートを各種(csv、html など)ファイル形式にエクスポート
- システムサポートを活用して pdf などにレポートを印刷

利点

ユーザーの場合

- より直観的な新しいレポートウィザードにより、ユーザーは Splunk 検索コマンドに関する高度な知識がなくても、頻繁に使われる図表およびチャートが作成できます。
- Splunk の結果を視覚化する柔軟性の向上により、より容易にデータの解釈および解析が行えます。
- 高度なチャート形式オプションにより、さらに魅力的なレポートを作成し、Splunk を使って経営管理者とそのレポートを共有できます。
- 経営管理者または同僚とレポートを共有できます。

- チャートおよび表を簡単に印刷またはエクスポートし、他のレポートおよび資料に取り込めます。

Windows 用 Splunk の改善

Windows 用 Splunk の改善

- Windows 対応パフォーマンスの改善 - Splunk の Windows 用パフォーマンスでは、インデックスタイムおよび検索タイムの両方で大幅に改善されました。
- Windows 入力用 Web UI - Splunk 管理経由のレジストリ監査および WMI など、Windows 特有の入力を管理します。
- イベントログタイプの拡張 - Splunk は Vista および Windows Sever 2008 のイベントログチャンネルからイベントログを読み込み、エクスポートされた .evt および .evtx ファイルをインデックスします。

海外対応 Splunk

海外対応 Splunk

Splunk は、拡張可能な方法で多言語に対応し、新しい言語をパッケージに含め、使用場所に合わせて日付および時刻をカスタマイズできます。

- Splunk Web インターフェースを容易に拡張して、希望の言語をサポートします。
- ご希望の言語でアプリケーションのコンテンツを書き込みます。
- Splunk Web インターフェースは、ユーザーベースで言語および数字に対応し、標準ロケール設定をサポートします。

拡張可能なアラート

拡張可能なアラート

高度な条件付アラート

この機能を使うと、ユーザーは、より複雑な条件を指定してアラートをトリガできます。以前のバージョンでは、ユーザーは、結果セットに現れるイベント、ソース、ホストの数を基に設定するアラート条件に限定されていました。今回から、ユーザーは、どの結果セットにも任意の条件を基に検索を指定できます。その検索がひとつまたはそれ以上のイベント(true など)を返す場合は、元の結果セットを含むアラートがトリガーされます。

管理者マニュアルの高度な条件付アラートについて詳しくお読みください。

大量データセットに対するアラート

この機能は、大量なデータセットに対して同時にアラートを実行します。これは、Splunk の大量データセット解析の拡張機能です。

Splunk のバックエンド処理およびアラート対応が大幅に改善されたことにより、ユーザーは、同時にアラートを実行することができます (以前のバージョンでは、逐次実行が可能)。

利点

- 以前の Splunk バージョンに比べ、大量データセットおよびより頻繁にアラートを実行できます。
- ユーザーは、アラートのトリガにより絞った条件が使用でき、見逃しまたは誤判定アラートの数が減少します。
- アラートの条件に、アラート自身のコンテンツを変更することなく、データセット上で複雑な計算を行うことができます。

分散型 Splunk の強化

分散型 Splunk の強化

アプリケーション、バイナリー、XML ファイルの展開

Splunk は、ディプロイメントサーバーを拡張して、ほぼあらゆるタイプのファイルを他の Splunk インスタンスに転送可能になりました。例えば、.gz、.zip、.xml ファイルをリモートで展開できます。ユーザーはディプロイメントファイルの場所を、ローカルまたはリモートのいずれかに定義し、ディプロイメントサーバーのソースファイルをダイナミックに同期化できます。さらに、拡張サーバークラスの動作により、サーバークラスのトポロジ内でサーバー定義の重複が可能です。

管理者マニュアルのディプロイメントサーバーについて詳しくお読みください。

Splunk データルーティングの強化

Splunk には、syslog out ベースの UDP または TCP を通して、ユーザー定義の宛先へデータルーティングするための新しいサポートが追加されています。TCP 用の syslog 設備および優先順位の設定をカスタマイズして、syslog ルーティングの柔軟性とコントロールを改善しています。いかなるインデックスされたデータフォーマットも、別のシステム (Splunk または他社 syslog リスナー)、Splunk による処理の有無に関わらず、希望の順に届けられます。補助保護機能により、ルーティングの前に、パケットレベルの容認または不正な syslog インプットの拒否を可能にします。

管理者マニュアルの syslog 設備および優先順位の設定ベースのデータルーティングについて詳しくお読みください。

自動ロードバランシング

自動ロードバランシングは、Splunk フォワーダから Splunk インデックスマシンに対して、ダイナミック接続とダイナミック不接続を可能にします。また、分散型トポロジの全域においてフォワーダおよびインデックス構造の信頼性が強化されています。ラウンドロビンおよび LRU 方式を含む複数のルーティングアルゴリズムがサポートされています。企業顧客は、完全な FQDN 名前解決によりさらに洗練された DNS ロードバランスを活用することができます。新しいロードバランス機能には以下があります。

- ダイナミック再接続と再試行
- 選択可能なルーティングアルゴリズムコントロール
- 潜在通知に対するメトリクス
- 改善された設定コントロール
- FQDN サーバ名前解決

管理者マニュアルの自動ロードバランシングについて詳しくお読みください。

バンド幅圧縮

Splunk フォワーダのバンド幅使用量は、管理者が完全に設定可能な新しいネットワークバンド幅圧縮機能により大幅に減少されています。

利点

Splunk ユーザーは、多くの分散型システムの Splunk 強化を実行することにより製造環境を容易に最適化できます。今回より Splunk は改善されたネットワーキングスループットをサポートしているため、syslog データのフィルタリングおよびルーティングのプロキシとして機能し、インデックスマシンへのネットワークアクセスの負荷バランスを図り、新しいファイルタイプを展開してアプリケーションの分散を容易にしています。

新しいセキュリティー管理

新しいセキュリティー管理

役割ベースの個人化

役割ベースの個人化機能は、ユーザーインターフェースにおける管理者ユーザーの利便性と、アプリケーション表示コントロールを拡張できます。これは、利用者に多くの利点があります。以下はその一部です。

- Splunk アプリケーションの UI 個人化
- Splunk の保存済みリソース(ダッシュボード、レポート、保存済み検索など)に対する UI アクセスの個人化
- すべての UI に対する Splunk リソースの精度なアクセスコントロール
- 顧客の LDAP システムに機密保持機能を統合することによる人件費削減
- 企業のコンプライアンスおよび監査に対応した Splunk セキュリティーモデルで、既存のセキュリティーコントロールと簡単に調和

SSL 圧縮

Splunk フォワーダ経由でネットワークを通過する Splunk データは今回から圧縮されます。標準圧縮率はデータタイプによって異なりますが、静的データタイプに対する通常の圧縮数は、70%以上のデータ圧縮が可能です。マイレージも異なります。

SSLv3 サポート

SSLv3 性能を、Splunk 環境のデフォルト動作として設定できます。

暗号スイートサポート追加

追加されたセキュリティーコントロールには、暗号スイートサポートが装備されています。これらの暗号には、署名および確認用の非共通鍵暗号アルゴリズム (RSA および DSA アルゴリズム) が含まれます。暗号化および暗号解読のための非共通鍵暗号アルゴリズムには、ユーザーが変調長さを選択できる数種のモードに分かれた 3DES 及び AES が付いています。ハッシングでは、Splunk は承認済み SHA-1 アルゴリズムをサポートします。メッセージの完全性には

Splunk は 512 までサポートする多様な HMAC ブロックサイズを持つ HMAC-SHA-1 をサポートします。

利点

セキュリティに関心の高い顧客の方々には、Splunk ならプロトコールや暗号スイートに対する厳しいセキュリティーガイドラインを達成が確保できます。さらに、Splunk はセキュリティーコントロールを拡張して、SSL 圧縮を通すネットワークスループットを改善し、アクセスコントロールモデルを拡張して、Splunk の UI オブジェクトのロールベース個人化を図ります。

検索言語とナレッジ拡張子

検索言語とナレッジ拡張子

ダイナミックなフィールドルックアップ

この機能を使うと、ユーザーは、検索で更新および使用可能なルックアップテーブルを作成できます(例えば、ip アドレスのリストを mac アドレスへマッピング)。ルックアップリストは、固定形式(csv ファイル)に保存、1 回の検索でダイナミックに生成、または外部データベースから取得できます。ルックアップは通常、検索結果にフィールドを追加および置換します。この機能には以下が含まれます。

- アプリケーション別に、csv ファイル形式で簡素な静的ルックアップリストを作成
- 検索により生成された結果からルックアップリストを作成
- 時間で変化する値を持つルックアップリストを作成
- スクリプトから外部データベースルックアップを実行(例、DNS サーバルックアップ)

ナレッジ管理マニュアルの検索にダイナミック情報を追加する説明を詳しくお読みください。

相対時間の調整

検索タイム(最後の日、先週、先月など)に相対する Splunk の標準組み込み時間範囲に加えて、Splunk では、ユーザーによる柔軟性の高い時間範囲指定が可能になりました。以下は、追加された時間範囲です。

- 現在の暦に対応する日、週、月、年 (今日、今週、今月、今年など)
- 前の期間に対応 (昨日、先週、先月、去年など)
- 営業日の週に対応 (前営業週、今営業週など)

管理者は、設定ファイルで各アプリケーションに関する相対時間範囲を設定できます。

ユーザーマニュアルの相対時間調整使用について詳しくお読みください。

改善された、または新しい検索コマンド

この機能には、新しい検索コマンドおよび強化されえた既存の検索コマンドが含まれます。

- 「convert」コマンドは、検索タイムでフィールド値のフォーマットを変更するのに使用されます。今回から「convert」は、数字からコンマを省くことが可能となりました。
- 「eval」コマンドは、曖昧な表現の評価(数学的および論理的評価を含む)を実行します。今回から「eval」は以

下が可能です。

- ◆ Splunk 内でより早い検索時間の演算
- ◆ 科学的計算のサポートによるより精密は計算
- ◆ 文字列比較、照会、交換機能の強化
- 「where」コマンドはデータ上で任意フィルタリングを実行します。今回から「where」には厳しい SQLite 構文を用いず、多くの SQLite 同等の機能をサポートします。
- CIDR 構文を用いて特定のサブネット内の IP アドレスを検索
- 「dedup」コマンドは、検索結果から重複したイベントおよびフィールド値を取り除きます。今回から「dedup」には、イベントおよびフィールドが連続している場合を省く指定が可能です。
- 「addtotals」コマンドは各イベントの行合計や全数字フィールドの算術的合計を計算します。今回から「addtotals」を用いて列合計も計算できます。
- 新しい「delta」コマンドは、フィールドの現在の値と以前の値の数字的差を計算します。
- 新しい「streamstats」コマンドは、ストリーミング技術でサマリー統計をすべての検索結果に加えます。
- 新しい「accum」コマンドは、指定した数字フィールドに対する実行計を計算します。
- 新しい「analyzefields」コマンドは、別の離散フィールドを予測する能力に対する数字フィールドを分析します。
- 新しい「trendline」コマンドは、フィールドの移動平均を計算します。
- 新しい一連のアクセラレータコマンドにより、サマリーインデックスの実装が簡単になりました。
- 検索言語マクロを作成する機能が、検索表現をモジュール化し、それにより引数を取得します。

検索レファレンスマニュアルの改善された、または新しい検索コマンドについて詳しくお読みください。

フィールドの名前変更、タギング、エイリアシングの改善

この機能では、Splunk のフィールドおよびソースタイプの取り扱いに以下の改善が施されています。

- ソースタイプを新しいまたは既存のソースタイプのいずれかに名前変更(以前のバージョンでは「ソースタイプエイリアシング」で置き換え)
- ソースタイプをタグする機能
- フィールドエイリアスの作成(共通情報モデルへの簡易サポート提供)
- ワイルドカードを使用したイベントタイプおよびタグの検索

ナレッジ管理マニュアルのエイリアシングフィールドに関する説明を詳しくお読みください。

ユーザーマニュアルのフィールドのタグ付けに関する説明を詳しくお読みください。

高度な匿名機能

Splunk の以前のバージョンでは、イベント内の機密データをマスクするには、管理者によるカスタム変換の書き込みが必要でした。今回から Splunk では、ファイルを読み込み、コマンドリストの指定に従って入力を変更する Unix ユーティリティ「sed」と同じ構文をサポートします。以下は機能一覧です。

- 正規表現照会ベースによる匿名設定および文字列置換

- ログデータ内の文字置き換え

利点

ユーザーの場合

- 情報の読み出しにサブ検索を実行する代わりに、ユーザーは、検索用に利用可能でレポートが作成できるリストに情報を保存できます。例えば、
 - ◆ 予約検索で、定期的にログファイルの不具合エンティティを探した後、ブラックリストに保存します。
 - ◆ 次に、別の予約検索が、頻繁にそのリストを確認して、ブラックリストにあるエンティティの行動を監視します。
- また、ユーザーは外部データベース内にある可能性のある値を探すこともできます。
 - ◆ 例えば、ユーザーは、DNS サーバ - を検索して数字の ip アドレスを dns 名に書き換えることができます。
- Splunk の設定が正しくない、またはインデックス中に不正な値がソースタイプに適用された場合、ユーザーは、データを再びインデックスする必要なく、ソースタイプラベルを速やかに変更できます。
- ソースタイプをタグする機能により、アプリケーション開発者は、より柔軟性のある検索を書くことができます。
- フィールドをエイリアスする機能により、フィールド名に異なるネームスペースを使用する機能が加わりました。
 - ◆ 例えば、ユーザーはフィールド名を CEE(cee.mitre.org)など、他のネームスペースと適合することができます。
- イベントタイプおよびタグを検索する際にワイルドカードを使用する機能により、複雑な検索も容易に構築できます。
- 時間範囲に暦の日、週、月を指定する検索により、レポートで過去の比較が容易になりました。(例えば、本日のトラッキングは昨日に比べて、または 2 日前に比べてどうか)。
- 営業週の活動のみに制限する検索により、ユーザーは、関係のある時間に限定したデータを便利に表示および解析できます (例えば、営業時間内のウェブトラフィックはいかなるものか)。
- 管理者は、一般的に知られている「sed」と同等の構文を用いたインデックスタイムで、社会保障番号、クレジットカード番号、パスワードなどの個人情報をもっと簡単にマスクおよび置換できます。

アクティブディレクトリのサポート

アクティブディレクトリのサポート

Splunk で Microsoft アクティブディレクトリを読み込み、監視、監査します。

アクティブディレクトリスキーマをベースラインに、変更を検出し、アクティブディレクトリの変更およびその他 Windows イベントからの抽出に対するキーフィールドを特定します。

すべてのアクティブディレクトリにおける変更を検出する、または特定のツリー、ドメイン、OU を対象に総合的な変更検出および監査を行います。

アクティブディレクトリに保存されているユーザーおよびマシンのメタデータ(名前、場所、電話番号など)を使用して、リストルックアップ機能を利用して検索タイムで他のイベントデータを装飾します。例えば、Windows アプリケーションが提供する、GUID-to-name イベントデコレーションおよび検索タイム機能に関するガイドについてをご覧ください。

このリリースに関する既知問題

既知問題

既知問題

Splunk 4.0 バージョンに関する問題と回避方法を以下に記します。

一般問題

シャットダウンすると、INFO となるべき多くの WARN ラインが splunk.log に表示されます。このラインは無視できません(SPL-24862)。

- 別の役割から性能を継承するよう既存の役割を編集するとき、すでに存在する性能と重複する場合に既存の役割からその性能が削除されます(SPL-24194)。
- CLI を使用してホストを分散型検索ピアとして正常に追加する前に、そのホストに手動で証明書を分散します(SPL-24786)。
- AD に対する LDAP 認証が realNameAttribute = cn の場合、すべてのユーザーがリストされていないことがあります。対策として、realNameAttribute に 'name' または 'displayName' を設定します(SPL-25462)。
- ユーザー名にスペースがあると、ビューを編集できません(SPL-25537)。

データ入力問題

- inputs.conf 用の spec ファイルの rcvbuf のデフォルト値が正しくない (SPL-24860)。
- 105MB 以上のローカルファイルのアップロードは現在サポートされていません (SPL-24292)。
- followTail 設定を使用した monitor 入力は、意図に反して古いイベントまたは更新されたログファイルからのすべてのイベントがインデックスされることがあります (SPL-23555) 。

ライセンスの移行

Splunk 4.x は、以前のリリースで取得されたライセンスでは機能しません。4.0.2 をインストールすると、既存の 3.x ライセンスをバックアップして、4.x エンタープライズ評価用ライセンスに切り替えます。これは、新しいライセンスを取得するまで使用可能です。

- 現在エンタープライズ版をご利用の方は、plunk.com の注文ページで更新ライセンスをご確認ください。
- 3.x 無料ライセンスまたはエンタープライズのライセンスで実行すると、Splunk 4.x 起動する前に `$SPLUNK_HOME/etc/splunk.license` ファイルが削除されます。その後、インスタンスが 60 日間有効のエンタープライズ評価用ライセンスを取得します。

ローカリゼーション、インターナショナル化、文字セットの問題

- 最新の Windows を含む特定の日本語版 OS は、¥(円)を使ってパス名の中のバックスラッシュを表示します。これによりファイルの監視およびスプーリング時に問題が発生する可能性があります。また、ファイルパスがデータセットの一部である場合には、カスタム regex (正規表現)設定が必要です(SPL-23307)。

アプリケーションおよびアプリケーションのディプロイメント問題

- 初めて実行する際、入力で衝突の問題が発生します。*Nix App を有効にすると、その入力が自身のデータを「os」インデックスに格納します。これは、デフォルトで*Nix App インターフェースのみが検索可能なデータです。次に/var/log を入力に追加(Getting Started App または別のアプリケーションを使う)しようとする、入力が既に存在するというエラーが表示されます(SPL-25138)。
- 先にアプリケーションを有効にしなくても、アプリケーションの設定ページが表示できません(SPL-24852)。
- Windows および*Nix アプリケーション用のナビゲーションメニューにダッシュボードが追加されません(SPL-24933)。
- 管理からビューが削除できません(SPL-24908)。
- 古いモジュール、テンプレート、アプリケーションのコンポーネントは、アップグレードで削除されません(SPL-22494)。
- ダッシュボードで参照する保存済み検索を削除すると、そのダッシュボードはロードされません(SPL-25145)。

検索と検索アプリケーションの問題

- 引用文字を含むフィールド値をクリックしても、検索文字内でエスケープしません(SPL-25001)。
- 無効なイベントタイプを作成してもエラーが発生しません(SPL-25091)。
- すでに存在する名前を付けて検索を保存しようとする、曖昧なエラーメッセージ(「入力は保存されませんでした。次のエラー、未定義が報告されました。」)が表示されます(SPL-24267)。
- 「uniq」コマンドが機能しない。また、検索に「|uniq」を使うと、結果が 0 になります。この場合は、代わりに「|dedup_raw」を使用します(SPL-25852)。

Splunk Web と管理の表示問題

- IE7 でパネルレイアウトビューをスクロールしても正しく作動しません(SPL-24861)。
- 管理 > ユーザーでページ別にユーザー数は表示されても、それを変更すると維持されません(SPL-24896)。
- ジョブマネージャーで検索ジョブを一時停止すると、ジョブの表示内容が更新されません(SPL-24999)。
- web.conf で updateCheckerBaseUrl = 0 の場合、Splunk Web で `AttributeError: 'int' object has no attribute 'strip'` というエラーが発生します。この設定を「none」または空の値に変更して、updateChecker を無効にする、またはそのラインを削除して有効にします(SPL-25319)。
- クッキーが無効になっている、またはサーバおよび/またはクライアントの CPU 時間が正しくない場合、ログインページに戻ります。クッキーのタイムスタンプを確認するときに、マシンの両方が同じ GMT 時間になっている必要があります(SPL-22393)。
- レポートを作成しメールで送る検索をスケジュールする場合、ユーザーが指定したチャートフォーマットと異なるものにリンクします(SPL-25671)。

Windows 特有の問題

- クロール機能は Windows では利用できません(SPL-24843)。
- Windows App は、4.0 から 4.0.2 バージョンの app.conf ファイルで有効に設定されています。4.0.3 移行は、同一ファイルでデフォルトで無効に設定されています(SPL-25487)。以下の重要詳細をお読みください。

- ◆ 4.0 から 4.0.2 を 4.0.3 以降にアップグレードする場合、Windows App は更新前のバージョンで有効であっても無効になります。
- ◆ 4.0.3 以降を新規にインストールする場合、Windows App は MSI 経由のデフォルトで有効です。無効でインストールする場合は、SPLUNK_APP msiexec コマンドを使用して「コマンドラインから Windows へのインストール」の記述に従って指定します。

3.4.x 版 Splunk ユーザーの検討すべき事項とサポート

Splunk 4 は、性能と柔軟性において飛躍的に向上していますが、3.4.x 版から更新する場合に留意しなければならない相互作用変化がいくつかあります。また、更新せずに次のバージョンのリリースを待つこともできます。以下は、Splunk 4 の導入により変更された機能の説明です。

Live テール

- Splunk 4 の著しく改良された検索およびインデック速度に加え、中間検索結果を提供する機能により、ほぼリアルタイムでデータを表示するために個別のライブイベントのコンソールを持つ必要がなくなりました。反面、3.4.x 版の「Live テール」機能に依存するケースがある場合は、Splunk 4 へのアップグレードを待つこともできます。弊社の製品計画では、より大量のデータフローを全域に、さらに分散環境を全域にもたすライブテール機能の再建築が予定されています。さらに、今後のアーキテクチャ変更の結果に伴い今後改善されるリアルタイムアラートとダッシュボードアップデートにもご注目ください。

カスタムフィールドアクション

- 顧客意見を基に、この機能の再建築を取り決め、柔軟性を改善しさらに複数フィールドを基にしたイベントアクションを可能にします。極めて近い将来にリリースされる 4.x 版に再び盛り込まれる機能としてご期待ください。この機能を使用し、さらにアップグレードを希望する場合は、代わりに外部データベースおよび一覧からデータを Splunk に割り当てる Splunk 4 の新しい「ダイナミックフィールドルックアップ」機能をご検討ください。

スナップショット

- Splunk 4 では、個々の検索に対してタイムラインスナップショットを撮る 3.x 版の性能がさらに改良されています。Splunk 4 の新しいジョブマネージャーは、すでに検索された結果からレポートを含むすべてのキャッシュ検索結果を回収できるようになりました。是非お試しください。

イベントスクローリング

- Splunk 4 では、検索中でも実行可能な新規ページセクターで結果間を自由に移動できる柔軟性が付加されています。引き続きスクロールバーを使用する場合は、今後の 4.x 版リリースにおいてオプション機能として再び盛り込まれる予定です。

タイムラインとタイムスタンプの相互作用

- Splunk 4 では、を改良し、ユーザーが検索を再実行する必要なく、検索結果を任意の時間範囲で即座に見れるようにしました。さらに、タイムラインの「ズームイン」をクリックすると、時間範囲を固定して検索を続行する指定が可能です。

- さらに、タイムスタンプのクリック、タイムラインバーのダブルクリックなど、3.4.x 版機能の使いやすさを今後の 4.x 版リリースに向けて改善する予定です。

クローल

- クロールは UI から設定できなくなりましたが、検索コマンドとして引き続きご利用頂けます。顧客からの意見を基に、より簡単かつ効果的にご利用頂くため、この機能の再建築を取り決めました。機能改善と、今後のリリースで紹介される予定の新しいユーザーインターフェースにご期待ください。

FIFO 入力

- この入力タイプは、Splunk 4 よりサポート保証されなくなりました。したがって、データ損失の懸念からベストプラクティスとしての使用はお勧めしません。現在この入力タイプを活用されている場合は、Splunk が監視するフラットファイルへ出力を書き込むことをご検討ください。

CLI への変更

CLI への変更

Splunk のコマンドラインインターフェース「CLI」は、4.0 版リリースで完全に書き新しくなりました。以下に新しい機能と、削除または今後サポートされないコマンドオプションについて一覧します。

新機能

以下は、4.0 に加えられた新しいコマンドとオプションです。詳細については、コマンドのヘルプページにアクセスしてください。

```
$SPLUNK_HOME/bin/splunk help <command>
```

- **display/remove/show** jobs
- **enable/disable** index
- **add** oneshot
- **add/edit** saved-search [summary_index|start_time|edit_time|ttl|fields]

4.0 から使用不能となったコマンドオプション

以下は、4.0 から削除され今後サポートされなくなったコマンドとオプションのリストです。

- **activate**
- **add** [blacklist|fifo|forward-group|server-class|s2s-blacklist]
- **add/edit** saved-search [rss|shared]
- **disable** [module]
- **display** [module|webserver|web-ssl]
- **edit** [blacklist|deploy-client|fifo|forward-group|forward-server|s2s]
- **getconf** [dist-search]
- **list** [auth-roles|blacklist|deploy-info|discovered|fifo|forward-group]

- **remove** [blacklist|fifo|forward-group|index|server-class]
- **show** [user-pref|web-sslport]

バージョン別変更ログ

4.0.1

4.0.1

以下は、このバージョンの Splunk で対処された問題です。

- 有効なメールアドレスが、4.0 付属の*Nix App 内の 2 つの予約検索アラートの受信者に影響を及ぼしているとして誤って設定されていました。この設定は、4.0.1 にて訂正されました(SPL-25340)。
- Splunk フォワーダのライセンスが正しいバージョンに更新されたため、4.0.1 以降のバージョンから機能します (SPL-25339)。

4.0.2

4.0.2

以下は、このバージョンで対応された問題です。

- 3.x のディプロイメント・クライアントは、4.x Splunk インスタンスと交流する際、クラッシュしなくなりました(SPL-25381、SPL-25466)。
- 以降 Splunk は 3.x ライセンスをバックアップしてから、仮の 4.x エンタープライズ評価用ライセンスに切り替わります。これにより、御社のシステムは splunk.com 注文ページから更新ライセンスを購入しても続けて機能します(SPL-25422)。
- 今回から Splunk はスタートアップ時に Splunk Web で製品バージョンを正確に識別します(SPL-24954)。
- Windows UNC シェアへのインプット作成は、今回から、管理で正しく機能します (SPL-25352)。
- プライベートビューを名前を指定せずにクローンしても、削除されなくなりました (SPL-25320)。
- 分散型検索結果は、ひとつまたは複数の検索ピアが所定の期間で最小データを持つ場合に、遅滞しなくなりました(SPL-25313)。
- 分散型検索は、SSL を無効にした後でも機能します(SPL-25276)。
- *Nix App の保存済み検索エラーが解決されました (SPL-25253)。
- RegNtPostSetKeySecurity および RegNtPostQueryKeySecurity の Windows のセキュリティイベントは、Windows レジストリを監視する際、正しく獲得されるようになりました (SPL-25243)。
- splunk-launch.conf の従来 Splunk 3.x 値、SPLUNK_BINDIP の設定は、今後から SplunkWeb から起動されなくなります(SPL-25343)。

4.0.3

4.0.3

以下は、このバージョンで対応された問題です。

解決済み一般問題

- 保存済み検索で入力した文字列を正しく反映しないという問題が解決されました。知られている状況では、`|top field1 field2` または `top x by x` などとして複数フィールドにトップを使用した場合、「不明な検索オペレータ:未定義」エラーが表示する(SPL-25447)または、異なる検索を表示していました(SPL-25446)。
- 前バージョンから移行した後、保存済み検索を Search App に正しく移動し、グローバルに利用できるステータスに昇格するようになりました(SPL-25311)。
- 検索資料のカンニングペーパーは、4.x 用に更新されます(SPL-23986)。
- 検索ジョブの復帰または検索条項の指示などに関わるさまざまな問題が解決されました(SPL-21740)。
- Unicode 文字で特定の組み合わせを行うと、不正な文字列セットを検出する問題が解決されました(SPL-20780)。
- CLI で `./splunk list forward-server` を実行すると、フォワーダの状態をを正確に反映できるようになりました(SPL-25626)。
- `listtails` コマンドは、最後まで実行できます (SPL-25587)。
- Splunk の起動が遅い問題が解決されました (SPL-25572)。
- 自動ヘッダーをベースにしたフィールド抽出は、レポートの内容定義時に、正しく表示されるようになりました(SPL-25544)。
- アラートを經由してスクリプトへ送付された結果のパスが正しく訂正されました(SPL-25512)。
- 'always'アラート条件が正しくトリガーするようになりました (SPL-25504)。
- `splunkmon.log` ファイルは、再スタートを正確に報告できるようになりました (SPL-24928)。
- 管理者の役割は、デフォルトで内部以外のインデックスすべてを表示できるようになりました(SPL-24962)。
- サブ検索条項は、保存済み検索をサブ検索とともに実行すると復帰されます(SPL-24957)。
- 予定保存済み検索のスケジュールは、その保存済み検索を無効にすると、保存されます(SPL-25073)。
- LDAP の設定中に、グループ割り当て属性に関与するクラッシュが解決されました (SPL-25089)。
- 保存済み検索の編集集中にチャートのフォーマット設定がなくなる問題が解決されました(SPL-24750)。
- ソースタイプの名前変更は、検索アシスタントに正確に反映されます(SPL-24672)。
- Splunk Web を `splunkd` より先に起動すると、Splunk Web にログインできない問題が解決されました(SPL-24141)。
 - ひとつの日本語文字の検索に、重引用符")の必要がなくなりました(SPL-23697)。
- データ引き上げ方針に従わない場合の問題が解決されました(SPL-23415)。
- `/learned` ディレクトリが/etc/bundles に存在する場合に、新しいソースタイプが正確に作成されます(SPL-25556)。
- `authToken` に書き込めない場合、CLI は、許可例外を与えなくなりました (SPL-25347)。
- `indexes.conf` の `isReadOnly` オプションは正しく機能するようになりました (SPL-25233)。

- バケットを割り当てる CLI および検索コマンドは、splunk search "| debug cmd=roll index=index_name"に変更されました(SPL-25227)。
- エンタープライズ評価用ライセンスを使用する際、同じライセンスを複数の分散型検索ヘッドに使用できます。
 - addcoltotals演算子が正しく機能するようになりました (SPL-24628)。

Splunk Web/マネージャーに関する問題の解決

- 今後はブラウザの選択した場所が優先されます。さらに、Splunk Web は en_US に依存しなくなりました (SPL-25432)。
- Splunk が splunk.com に接続できない場合、Splunk Webは、Launcher または検索 App から「管理」リンクを選択してもハングアップしなくなりました (SPL-25520、SPL-24670)。
- Linewrapping は Firefox 3.5 で正しく機能するようになりました (SPL-24856)。
- 「next」 ページネーションのリンクをローカライズできます(SPL-25378)。
- UDP 入力ページは、データを正しく表示できるようになりました (UDP ポートに転送されたデータを持つすべての IP は表示しない) (SPL-25465)。
- Flash 項目を含むモジュールの表示は、スクロールダウンしても正しくロードされます (SPL-25476)。
- 管理でソースタイプを手動設定しても正しく機能するようになりました(SPL-25549)。
- Splunk Web のフィールド名に正しくセミコロンが使用されるようになりました (SPL-17300)。
- UTF-8 以外の入力が Splunk Web で正しく使用されるようになり、「 [SimpleResultsTable module] Input is not proper UTF-8」のエラーを生成しません (SPL-25529)。
- レポートビルダは、より多くの複雑な検索に正しく対応します(SPL-25322)。

解決済みの特有の問題

- WMI コレクションの入力は、検索および Windows App のみでなく、すべてのアプリケーションで適切にサポートされます (SPL-25209)。
- Windows App で問題のあるリンクは修正されました (SPL-25548)。
- commandline/MSI を使用して Windows のアプリケーションをインストールしても、デフォルトで有効になりません (SPL-25487)。
- Windows のソースタイプを表示するとき、Splunk Web は、余分なバックラッシュ (\) を付け足しません (SPL-25298)。
- 「オブジェクト名」および「オブジェクトタイプ」フィールドの Windows セキュリティーイベントログ GUID が正しく書き換えられるようになりました(SPL-25263)。
- admon.conf の spec および example ファイルが標準装備されるようになりました (SPL-25231) 。
- admon.conf のヘッダは、\$SPLUNK_HOME/etc/apps/windows/local にすべき変更が \$SPLUNK_HOME/etc/system/local で行われていてもエラーにならなくなりました (SPL-24859)。
- WMI イベントは、スペースがソースやソースタイプ値に付け加えられた Windows 以外のインデクサに転送されなくなりました (SPL-25666)。
- スクリプトによる入力は、旧バージョンに比べ処理が速くなりました(SPL-25452)。
- objectGUID は、Admon イベントに正しく報告されるようになりました(SPL-25315)。

奥付

奥付

奥付

Splunk には、他社が書き込んだライブラリが含まれ、それぞれのオープンソースライセンスの下、Splunk の一部として再配布されています。弊社はこのプロジェクトにご貢献頂いた皆様に感謝の念を表します。

左側のライブラリ名を選択して、ライセンスをご覧ください。

Babel

Babel

Copyright © 2007 Edgewall Software 無断複写・複製・転載を禁ず

ソースコードおよびバイナリ形式による再配布および使用は、修正の有無に関わらず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

1. ソースコードの再配布には、上述の著作権揭示、この条件リスト、以下の免責文を含めることが必要です。
2. バイナリ形式の再配布には、上述の著作権揭示、この条件リスト、以下の免責文を書類、および / もしくは再配布の際に提供するその他の媒体に含める必要があります。
3. 著者名は書面による事前の許可なしに、このソフトウェアから派生する商品の容認または促進に使用してはいけません。

このソフトウェアは著者より、「現状のまま」、市販性および特定目的との適合性などの点を含む、ただしこれに限定されない、明示的または暗示的な保証をすることなく提供されています。いかなる場合でも、損害が生じる可能性について報告を受けていたとしても、契約、厳格責任、または不法行為（過失、その他を含む）であろうと本ソフトウェアの使用により生じる、または責任の法理が適用される直接的、間接的、偶発的、特別、典型的、結果的なあらゆる損害（代用品またはサービスの調達、使用不能、データまたは利益の損失、または事業中断などを含み、これに限定されない）に対して、著者は一切責任を負いません。

Beaker

Beaker

Copyright (c) 2006, 2007 Ben Bangert, Mike Bayer, Philip Jenvey and contributors.

無断複写・複製・転載を禁ず

ソースコードおよびバイナリ形式による再配布および使用は、修正の有無に関わらず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

1. ソースコードの再配布には、上述の著作権揭示、この条件リスト、以下の免責文を含めることが必要です。
2. バイナリ形式の再配布には、上述の著作権揭示、この条件リスト、以下の免責文を書類、および / もしくは再配布の際に提供するその他の媒体に含める必要があります。

著者または貢献者の名前は書面による事前の許可なしに、このソフトウェアから派生する商品の容認または促進に使用してはいけません。

このソフトウェアは著者または貢献者より、「現状のまま」、市販性および特定目的との適合性などの点を含む、ただしこれに限定されない、明示的または暗示的な保証をすることなく提供されています。いかなる場合でも、損害が生じる可能性について報告を受けていたとしても、契約、厳格責任、または不法行為（過失、その他を含む）であろうと本ソフトウェアの使用により生じる、または責任の法理が適用される直接的、間接的、偶発的、特別、典型的、結果的なあらゆる損害(代用品またはサービスの調達、使用不能、データまたは利益の損失、または事業中断などを含み、これに限定されない)に対して、著者は一切責任を負いません。

bzip2

bzip2

bzip2 および libbzip2、1.0.5 バージョン

データ圧縮用プログラムおよびライブラリ

Julian Seward

<http://www.bzip.org>

2007年12月10日リリースの1.0.5バージョン

Copyright © 1996-2007 Julian Seward

本プログラム、bzip2、関連ライブラリ libbzip2、およびすべてのドキュメントは、1996-2007 Julian Seward の著作権が保護されています。無断複写・複製・転載は禁じられています。

ソースコードおよびバイナリ形式による再配布および使用は、修正の有無に関わらず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

- ソースコードの再配布には、上述の著作権揭示、この条件リスト、以下の免責文を含めることが必要です。
- 元となるソフトウェアについて誤った記述をしてはいけません。元のソフトウェアの著作を主張してはいけません。本ソフトウェアを製品に含める場合は、その製品の文書にその旨を明記してください。(必須ではない)
- 修正版については、そのことを明記しなければなりません。元のソフトウェアであるかのような誤った記述をしてはいけません。
- 著者名は書面による事前の許可なしに、このソフトウェアから派生する商品の容認または促進に使用してはいけません。

このソフトウェアは著者より、「現状のまま」、市販性および特定目的との適合性などの点を含む、ただしこれに限定されない、明示的または暗示的な保証をすることなく提供されています。いかなる場合でも、損害が生じる可能性につ

いて報告を受けていたとしても、契約、厳格責任、または不法行為(過失、その他を含む)であろうと本ソフトウェアの使用により生じる、または責任の法理が適用される直接的、間接的、偶発的、特別、典型的、結果的なあらゆる損害(代用品またはサービスの調達、使用不能、データまたは利益の損失、または事業中断などを含み、これに限定されない)に対して、著者は一切責任を負いません。

特許権:私が知る限り、bzip2 または libbzip2 は、いかなる *特許アルゴリズム* も使用していません。ただし、特許検索を実施するためのリソースを持ち合わせないため、上述の記述に対していかなる保証をするものではありません。

CherryPy

CherryPy

Copyright (c) 2002-2008, CherryPy Team (team@cherrypy.org)

無断複写・複製・転載を禁ず

ソースコードおよびバイナリ形式による再配布および使用は、修正の有無に関わらず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

- ソースコードの再配布には、上述の著者権揭示、この条件リスト、以下の免責文を含めることが必要です。
- バイナリ形式の再配布には、上述の著者権揭示、この条件リスト、以下の免責文を書類、および / もしくは再配布の際に提供するその他の媒体に含める必要があります。
- CherryPy チームまたはその貢献者の名前は書面による事前の許可なしに、このソフトウェアから派生する商品の容認または促進に使用してはいけません。

このソフトウェアは著作権保持者または貢献者より、「現状のまま」、市販性および特定目的との適合性などの点を含む、ただしこれに限定されない、明示的または暗示的な保証をすることなく提供されています。いかなる場合でも、損害が生じる可能性について報告を受けていたとしても、契約、厳格責任、または不法行為(過失、その他を含む)であろうと本ソフトウェアの使用により生じる、または責任の法理が適用される直接的、間接的、偶発的、特別、典型的、結果的なあらゆる損害(代用品またはサービスの調達、使用不能、データまたは利益の損失、または事業中断などを含み、これに限定されない)に対して、著者は一切責任を負いません。

decorator

decorator

著者: Michele Simionato メール: michele.simionato@gmail.com

ソースコードおよびバイナリ形式による再配布および使用は、修正の有無に関わらず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

ソースコードの再配布には、上述の著者権揭示、この条件リスト、以下の免責文を含めることが必要です。

バイトコード形式での再配布は、上述の著者権揭示、この条件リスト、以下の免責文を書類、および / もしくは再配布の際に提供するその他の媒体に含める必要があります。

このソフトウェアは著作権保持者または貢献者より、「現状のまま」、市販性および特定目的との適合性などの点を含む、ただしこれに限定されない、明示的または暗示的な保証をすることなく提供されています。いかなる場合でも、損害が生じる可能性について報告を受けていたとしても、契約、厳格責任、または不法行為（過失、その他を含む）であろうと本ソフトウェアの使用により生じる、または責任の法理が適用される直接的、間接的、偶発的、特別、典型的、結果的なあらゆる損害(代用品またはサービスの調達、使用不能、データまたは利益の損失、または事業中断などを含み、これに限定されない)に対して、著者は一切責任を負いません。

FormEncode

FormEncode

PSF ライセンスが適用されます。(後述)

A. 本ソフトウェアの歴史

=====

Python は 1990 年代の始め、オランダの Stichting Mathematisch Centrum (CWI, <http://www.cwi.nl/> 参照)で Guido van Rossum により ABC と呼ばれる言語の後継言語として生み出されました。その後、多くの人々が Python に貢献していますが、今日でも Guido が Python 製作者として挙げられています。

1995 年、Guido は米国ヴァージニア州レストンにある Corporation for National Research Initiatives (CNRI, <http://www.cnri.reston.va.us/> 参照)で Python の開発に携わり、いくつかのバージョンをリリースしました。

2000 年 5 月、Guido と Python のコア開発チームは BeOpen.com に移り、BeOpen PythonLabs チームを結成しました。同年 10 月、PythonLabs チームは Digital Creations (現在の Zope Corporation, <http://www.zope.com/> 参照)に移り 2001 年、Python に関する知的財産を保有するための非営利組織 Python Software Foundation (PSF, <http://www.python.org/psf/> 参照)を立ち上げました。このとき Zope Corporation は PSF の賛助会員になっています。

Python のリリースは、すべてオープンソース (オープンソースの定義は <http://www.opensource.org/> を参照してください)です。歴史的に、ごく一部を除くほとんどの Python リリースは GPL 互換になっています。各リリースについては下表を参照してください。

リリース	ベース	年	権利	GPL互換(1)
0.9.0 thru 1.2	1991	1995	CWI	yes
1.3 thru 1.5.2	1.2	1995-1999	CNRI	yes
1.6	1.5.2	2000	CNRI	no
2.0	1.6	2000	BeOpen.com	no
1.6.1	1.6	2001	CNRI	Yes (2)
2.1	2.0+1.6.1	2001	PSF	no
2.0.1	2.0+1.6.1	2001	PSF	yes
2.1.1	2.1+2.0.1	2001	PSF	yes
2.2	2.1.1	2001	PSF	yes
2.1.2	2.1.1	2002	PSF	yes
2.1.3	2.1.2	2002	PSF	yes
2.2.1	2.2	2002	PSF	yes
2.2.2	2.2.1	2002	PSF	yes
2.2.3	2.2.2	2003	PSF	yes
2.3	2.2.2	2002-2003	PSF	yes
2.3.1	2.3	2002-2003	PSF	yes
2.3.2	2.3.1	2002-2003	PSF	yes

2.3.3	2.3.2	2002-2003	PSF	yes
2.3.4	2.3.3	2004	PSF	yes
2.3.5	2.3.4	2005	PSF	yes
2.4	2.3	2004	PSF	yes
2.4.1	2.4	2005	PSF	yes
2.4.2	2.4.1	2005	PSF	yes
2.4.3	2.4.2	2006	PSF	yes
2.5	2.4	2006	PSF	yes

脚注:

(1) 「GPL 互換」という表現は、Python が GPL で配布されているという意味ではありません。Python のライセンスは全て、GPL と違い、変更したバージョンを変更をオープンソースを変更せずに配布可能となります。GPL 互換のライセンスの下では、GPL でリリースされている他のソフトウェアと Python を組み合わせられますが、それ以外のライセンスはそうではありません。

(2) リチャード・ストールマンによると、ライセンスに法選択の規定があることから 1.6.1 は GPL 互換ではありません。反面、CNRI は、ストールマンの弁護士が CNRI の弁護士に、1.6.1 は GPL と「互換性がないとはいえない」と伝えています。

Guido の指示の下、これらのリリースを可能にするためご尽力下さった多くのボランティアの皆様にご感謝いたします。

B. Python にアクセスし、またはその他の方法で Python を使用するための契約条件

=====

PSF ライセンス契約バージョン 2

1. 本ライセンス契約は、Python Software Foundation (以下「PSF」) と、ソースまたはバイナリ形式の本ソフトウェア (以下「Python」) およびその関連文書にアクセスし、またはその他の方法でそれらを使用する個人または組織 (以下「ライセンシー」) との間で交わされます。
2. 本ライセンス契約に定める諸条件に従い、PSF はライセンシーに対し、単体もしくは派生バージョンの Python を複製、解析、テスト、公然と実行および/または表示、派生成果物の作成、配布、その他の方法で使用する非独占的な、権利使用料無料の、世界規模のライセンスを付与します。ただし、単体またはライセンシーが作成する派生バージョンの Python に、PSF のライセンス契約、および PSF の著作権表示、すなわち「Copyright (c) 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006 Python Software Foundation; All Rights Reserved」を記載することを条件とします。
3. ライセンシーが、Python またはその一部を基にして、あるいはそれを組み込んで派生成果物を作成する場合で、かつ、ここに規定されているように派生成果物を公開する場合、ライセンシーは Python に加えた変更の要約を当該成果物に含めることに同意するものとします。
4. PSF は、Python を「現状のまま」でライセンシーに提供します。明示的または暗示的に関わらず、PSF はいかなる表明も保証も行いません。一例として、PSF は商品性または特定の目的への適合性について、あるいは Python の使用が第三者の権利を侵害しないかどうかについていかなる表明も保証も行わず、また一切の責任を負いません。

5. PSF は、ライセンサーまたは Python の他のすべての利用者に対し、Python もしくはその派生物を変更、配布、またはその他の方法で使用したことに起因する一切の偶発的、特別、派生的な損害または損失について何らの責任も負いません。PSF がその可能性について知らされていた場合も同様です。
6. 本契約中の諸条件の重大な違反があった場合、本ライセンス契約は自動的に失効します。
7. 本ライセンス契約により、PSF とライセンサーとの間に代理、提携、または合弁の関係が生じることは一切ありません。本ライセンス契約は、ライセンサーまたは第三者の製品またはサービスを容認または促進する目的で、PSF の商標、もしくは商標の意味での商標名を使用することを許可するものではありません。
8. Python を複製、インストール、またはその他の方法で使用するによって、ライセンサーは本ライセンス契約の定める諸条件に従うことに同意するものとします。

BeOpen.com の Python 2.0 の契約条件

BeOpen Python オープンソース・ライセンス契約 バージョン 1

1. 本ライセンス契約は、160 Saratoga Avenue, Santa Clara, CA 95051 に事務所を置く BeOpen.com (以下「BeOpen」) と、ソースまたはバイナリ形式の本ソフトウェアおよびその関連文書 (以下「ソフトウェア」) にアクセスし、またはその他の方法でそれらを使用する個人または組織 (以下「ライセンサー」) との間で交わされます。
2. 本 BeOpen Python ライセンス契約に定める諸条件に従い、BeOpen はライセンサーに対し、単体もしくは派生バージョンのソフトウェアを複製、解析、テスト、公然と実行および/または表示、派生成果物の作成、配布、その他の方法で使用する非独占的な、権利使用料無料の、世界規模のライセンスを付与します。ただし、単体またはライセンサーが作成する派生バージョンのソフトウェアに、BeOpen Python ライセンスを記載することを条件とします。
3. BeOpen は、ソフトウェアを「現状のまま」でライセンサーに提供します。明示的または暗示的に関わらず、BeOpen はいかなる表明も保証も行いません。一例として、BeOpen は商品性または特定の目的への適合性について、あるいはソフトウェアの使用が第三者の権利を侵害しないかどうかについていかなる表明も保証も行わず、また一切の責任を負いません。
4. BeOpen は、ライセンサーまたはソフトウェアの他のすべての利用者に対し、ソフトウェアまたはその派生物を使用、変更、配布したことに起因する一切の偶発的損害、特別損害、派生的損害または損失について何らの責任も負いません。BeOpen がその可能性について知らされていた場合も同様です。
5. 本契約中の諸条件の重大な違反があった場合、本ライセンス契約は自動的に失効します。
6. 本ライセンス契約は、法律の抵触条項を除いて、米国カリフォルニア州の法律の定めに従い、すべての点でこの法律に従って解釈されます。本ライセンス契約により、BeOpen とライセンサーとの間に代理、提携、または合弁の関係が生じることは一切ありません。本ライセンス契約は、ライセンサーあるいは第三者の製品またはサービスを容認または促進する目的で、BeOpen の商標、もしくは商標の意味での商標名を使用することを許可するものではありません。例外として、<http://www.pythonlabs.com/logos.html> から入手できる「!BeOpen Python」のロゴは、当該 Web ページで与えられる許可に従って使用することができます。

7. ソフトウェアを複製、インストール、またはその他の方法で使用するによって、ライセンシーは本ライセンス契約の定める諸条件に従うことに同意するものとします。

PYTHON 1.6.1 に関する CNRI ライセンス契約

1. 本ライセンス契約は、1895 Preston White Drive, Reston, VA 20191 に事務所を置く the Corporation for National Research Initiatives (以下「CNRI」) と、ソースまたはバイナリ形式の Python 1.6.1 ソフトウェアにアクセスし、またはその他の方法でそれらを使用する個人または組織 (以下「ライセンシー」) との間で交わされます。
2. 本ライセンス契約に定める諸条件に従い、CNRI はライセンシーに対し、単体もしくは派生バージョンの Python 1.6.1 を複製、解析、テスト、公然と実行および/または表示、派生成果物の作成、配布、その他の方法で使用する非独占的な、権利使用料無料の、世界規模のライセンスを付与します。ただし、単体またはライセンシーが作成する派生バージョンの Python 1.6.1 に、CNRI ライセンス契約及び CNRI 著作権の表示、つまり「Copyright (c) 1995-2001 Corporation for National Research Initiatives; All Rights Reserved」を記載することを条件とします。
3. あるいは、CNRI のライセンス契約に代えて、ライセンシーは次の文言を使用することもできます (括弧を除く)。「Python 1.6.1 は、CNRI のライセンス契約の諸条件に従って提供されます。この契約は、Python 1.6.1 と共に、インターネット上で 1895.22/1013 という一意の永続的な識別名 (ハンドルと呼ばれる) を使用して見つけることができます。また、<http://hdl.handle.net/1895.22/1013> という URL を使用して、この契約をインターネット上のプロキシ・サーバーから入手することもできます。」
4. ライセンシーが、Python 1.6.1 またはその一部を基にして、あるいはそれを組み込んで派生成果物を作成する場合で、かつ、ここに規定されているように派生成果物を公開する場合、ライセンシーは Python 1.6.1 に加えた変更の要約を当該成果物に含めることに同意するものとします。
5. CNRI は、Python 1.6.1 を「現状のまま」でライセンシーに提供します。明示的または暗示的に関わらず、CNRI はいかなる表明も保証も行いません。一例として、CNRI は商品性または特定の目的への適合性について、あるいは Python 1.6.1 の使用が第三者の権利を侵害しないかどうかについていかなる表明も保証も行わず、また一切の責任を負いません。
6. CNRI は、ライセンシーまたは Python 1.6.1 の他のすべての利用者に対し、Python 1.6.1 もしくはその派生物を変更、配布、またはその他の方法で使ったことに起因する一切の偶発的損害、特別損害、派生的損害または損失について何らの責任も負いません。CNRI がその可能性について知らされていた場合も同様です。
7. 本契約中の諸条件の重大な違反があった場合、本ライセンス契約は自動的に失効します。

本ライセンス契約は、アメリカ合衆国の連邦知的財産法の定めに従います。これには連邦著作権法も無制限に含まれます。そうした合衆国連邦法が適用されない範囲については、バージニアの法律の抵触条項を除き、バージニア州の法律の定めに従います。上記に関わらず、以前に GNU 一般公有使用許諾 (GPL) の下で配布された分離不可能な素材を組み込む Python 1.6.1 を基にした派生成果物に関しては、本ライセンス契約の第 4 項、第 5 項、および第 7 項の下、またはそれらの各項に関して生じる問題についてのみ、本ライセンス契約にバージニア州の法律が適用されるものとしま

す。本ライセンス契約により、CNRI とライセンシーとの間に代理、提携、または合併の関係が生じることは一切ありません。本ライセンス契約は、ライセンシーあるいは第三者の製品またはサービスを容認または促進する目的で、CNRI の商標、もしくは商標の意味での商標名を使用することを許可するものではありません。

8. 表示されている「受諾する」ボタンをクリックする、または Python 1.6.1 を複製、インストール、またはその他の方法で使用するにより、ライセンシーは本ライセンス契約の定める諸条件に従うことに同意するものとします。

受諾する

PYTHON 0.9.0 から 1.2 に関する CWI ライセンス契約

Copyright (c) 1991 - 1995, Stichting Mathematisch Centrum Amsterdam, The Netherlands. 無断複製・複製・転載を禁ず

本ソフトウェアおよび関連文書を、目的を問わず無償で使用、複製、変更、および配布することを許可します。ただし、上述の著作権表示をすべての複製に記載すること、上述の著作権表示と本許諾文言の両方を関連文書に記載すること、および、事前に書面で明確な許可を受けることなく、ソフトウェアの配布に関する宣伝や広告に Stichting Mathematisch Centrum または CWI の名前を使用しないことを条件とします。

Stichting Mathematisch Centrum は、商品性および適合性についてのすべての暗黙の保証も含めて、本ソフトウェアに関する何らの保証もしません。契約行為、過失、または不法行為のいずれの状況であろうと、Stichting Mathematisch Centrum は、本ソフトウェアの使用または実行に起因もしくは関連する、使用機会、データ、または利益の喪失によって生じる一切の特別、間接的、派生的、その他のあらゆる損害について何らの責任も負いません。

httplib2

httplib2

Copyright (c) 2006 by Joe Gregorio

以下に定める条件に従い、本ソフトウェアおよび関連文書のファイル(以下「ソフトウェア」)の複製を取得するすべての人に対し、ソフトウェアを無制限に扱うことを無償で許可します。これには、ソフトウェアの複製を使用、複写、変更、結合、掲載、配布、サブライセンス、および/または販売する権利、およびソフトウェアを提供する相手に同様の許可をする権利も無制限に含まれます。

上述の著作権表示および本許諾表示を、ソフトウェアのすべての複製または重要な部分に記載するものとします。

ソフトウェアは「現状のまま」で、明示または暗示を問わず、何らの保証もなく提供されます。この場合の保証とは、商品性、特定の目的への適合性、および権利非侵害についての保証も含み、それに限定されるものではありません。作者または著作権者は、契約行為、不法行為、またはそれ以外であろうと、ソフトウェアに起因または関連し、あるいはソフトウェアの使用またはその他の扱いにより生じる一切の請求、損害、その他の義務について何らの責任も負わない

ものとしします。

ICU

ICU

著作権と許可表示

Copyright (c) 1995-2009 International Business Machines Corporation and others

All rights reserved 無断複写・複製・転載を禁ず

著作権表示および本許諾表示を、ソフトウェアのすべての複製または重要な部分に記載することを前提として、本ソフトウェアおよび関連文書のファイル(以下「ソフトウェア」)の複製を取得するすべての人に対し、ソフトウェアを無制限に扱うことを無償で許可します。これには、ソフトウェアの複製を使用、複写、変更、結合、掲載、配布、サブライセンス、および/または販売する権利、およびソフトウェアを提供する相手に同様の許可をする権利も無制限に含まれます。

ソフトウェアは「現状のまま」で、明示または暗示を問わず、何らの保証もなく提供されます。この場合の保証とは、商品性、特定の目的への適合性、および第三者の権利非侵害についての保証も含まれますが、それに限定されるものではありません。契約行為、過失、または不法行為のいずれの状況であろうと、本公示書に含まれた著作権所持者は、本ソフトウェアの使用または実行に起因もしくは関連する、使用機会、データ、または利益の喪失により生じる一切の特別、間接的、派生的、その他のあらゆる損害について何らの責任も負いません。

本公示書に含まれたものを除き、著作権所持者名は、書面による事前の許可なしに、本ソフトウェアに関する広告や販促、使用またはその他の扱いに関連した使用をしないこととします。

jQuery

jQuery

Libarchive

Libarchive

本パッケージのCソースコードおよび書面のすべては、以下に定める条件に従います。

Copyright (c) 2003-2006 Tim Kientzle

All rights reserved. 無断複写・複製・転載を禁ず

ソースコードおよびバイナリ形式による再配布および再利用は、修正の有無に関わらず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

- ソースコードの再配布には、上述の著作権揭示、この条件リスト、以下の免責文を含めることが必要です。
- バイナリ形式の再配布には、上述の著作権揭示、この条件リスト、以下の免責文を書類、および/もしくは再配布の際に提供するその他の媒体に含める必要があります。

このソフトウェアは著者より「現状のまま」、市販性および特定目的との適合性などの点を含む、ただしこれに限定されない、明示的または暗示的な保証をすることなく提供されています。いかなる場合でも、損害が生じる可能性について報告を受けていたとしても、契約、厳格責任、または不法行為（過失、その他を含む）であろうと本ソフトウェアの使用により生じる、または責任の法理が適用される直接的、間接的、偶発的、特別、典型的、結果的なあらゆる損害（代用品またはサービスの調達、使用不能、データまたは利益の損失、または事業中断などを含み、これに限定されない）に対して、著者は一切責任を負いません。

lxml/ElementTree/XML Toys ライブラリ

lxml/ElementTree/XML Toys ライブラリ

lxml

lxml の著作権は BSD ライセンスの下で配布されています (doc/licenses/BSD.txt 参照)。以下はその例外です。

selftest.py、selftest2.py または src/lxml/_elementpath.py などのコードは、ElementTree および cElementTree から派生しています。ライセンステキストについて doc/licenses/elementtree.txt をご覧ください。

test.py、the test-runner script は、GPL および Shuttleworth Foundation の著作権が保護されています。doc/licenses/GPL.txt をご覧ください。ユニットテストスイートを実行する test.py を変更せずに含むこと、GPL の「アグリゲーション」の条項に該当するため、パッケージの他のライセンスに影響がありません。

doctest.py モジュールは、Python ライブラリから取得され、PSF Python ライセンス分類に入ります。

ElementTree / XML Toys ライブラリ

Copyright (c) 1999-2003 by Secret Labs AB

Copyright (c) 1999-2003 by Fredrik Lundh

本ソフトウェアおよび/または他の関連物の取得、利用、複製のいずれかを行うと、以下の条件と規約を読み、理解したものとみなされ、その準拠に同意したことになります。

本ソフトウェアおよび関連文書を、目的を問わず無償で使用、複製、変更、および配布することを許可します。ただし、上述の著作権表示をすべての複製に記載すること、上述の著作権表示と本許諾文言の両方を関連文書に記載すること、および、事前に書面で明確な許可を受けることなく、ソフトウェアの配布に関する宣伝や広告に Secret Labs AB または著者の名前を使用しないことを条件とします。

SECRET LABS AB および著者は、本ソフトウェアに関する全保障を一切負いません。それには全暗黙である保証と適合性を含みます。契約行為、過失、または不法行為のいずれの状況であろうと、SECRET LABS AB および著者は、本ソフトウェアの使用または実行に起因もしくは関連する、使用機会、データ、または利益の喪失により生じる一切の特別、間接的、派生的、その他のあらゆる損害について何らの責任も負いません。

Libxml2

Libxml2

ソースコード(同様のライセンスで異なる著作権表示を持つ hash.c ファイル、list.c ファイル、the trio ファイルなど)を除き、すべてのファイルは、以下に従います。

Copyright (C) 1998-2003 Daniel Veillard. 無断複写・複製・転載を禁ず

以下に定める条件に従い、本ソフトウェアおよび関連文書のファイル(以下「ソフトウェア」)の複製を取得するすべての人に対し、ソフトウェアを無制限に扱うことを無償で許可します。これには、ソフトウェアの複製を使用、複写、変更、結合、掲載、配布、サブライセンス、および/または販売する権利、およびソフトウェアを提供する相手に同様の許可をする権利も無制限に含まれます。

上述の著作権表示および本許諾表示を、ソフトウェアのすべての複製または重要な部分に記載するものとします。

ソフトウェアは「現状のまま」で、明示であるか暗黙であるかを問わず、何らの保証もなく提供されます。この場合の保証とは、商品性、特定の目的への適合性、および権利非侵害についての保証も含み、それに限定されるものではありません。DANIEL VEILLARD は、契約行為、不法行為、またはそれ以外であろうと、ソフトウェアに起因または関連し、あるいはソフトウェアの使用またはその他の扱いにより生じる一切の請求、損害、その他の義務について何らの責任も負わないものとします。

本公示書に含まれたものを除き、Daniel Veillard 名は、書面による事前の許可なしに、本ソフトウェアに関する広告や販促、使用またはその他の扱いに関連した使用をしないこととします。

Libxslt

Libxslt

libxslt 以外の libxslt 向けライセンス

Copyright (C) 2001-2002 Daniel Veillard. 無断複写・複製・転載を禁ず

以下に定める条件に従い、本ソフトウェアおよび関連文書のファイル(以下「ソフトウェア」)の複製を取得するすべての人に対し、ソフトウェアを無制限に扱うことを無償で許可します。これには、ソフトウェアの複製を使用、複写、変更、結合、掲載、配布、サブライセンス、および/または販売する権利、およびソフトウェアを提供する相手に同様の許可をする権利も無制限に含まれます。

上述の著作権表示および本許諾表示を、ソフトウェアのすべての複製または重要な部分に記載するものとします。

ソフトウェアは「現状のまま」で、明示であるか暗黙であるかを問わず、何らの保証もなく提供されます。この場合の保証とは、商品性、特定の目的への適合性、および権利非侵害についての保証も含み、それに限定されるものではありません。DANIEL VEILLARD は、契約行為、不法行為、またはそれ以外であろうと、ソフトウェアに起因または関連し、あるいはソフトウェアの使用またはその他の扱いにより生じる一切の請求、損害、その他の義務について何らの責任も

負わないものとします。

本公示書に含まれたものを除き、Daniel Veillard 名は、書面による事前の許可なしに、本ソフトウェアに関する広告や販促、使用またはその他の扱いに関連した使用をしないこととします。

libexslt 向けライセンス

Copyright (C) 2001-2002 Thomas Broyer, Charlie Bozeman and Daniel Veillard.

無断複写・複製・転載を禁ず

以下に定める条件に従い、本ソフトウェアおよび関連文書のファイル(以下「ソフトウェア」)の複製を取得するすべての人に対し、ソフトウェアを無制限に扱うことを無償で許可します。これには、ソフトウェアの複製を使用、複写、変更、結合、掲載、配布、サブライセンス、および/または販売する権利、およびソフトウェアを提供する相手に同様の許可をする権利も無制限に含まれます。

上述の著作権表示および本許諾表示を、ソフトウェアのすべての複製または重要な部分に記載するものとします。

ソフトウェアは「現状のまま」で、明示であるか暗黙であるかを問わず、何らの保証もなく提供されます。この場合の保証とは、商品性、特定の目的への適合性、および権利非侵害についての保証も含み、それに限定されるものではありません。著者は、契約行為、不法行為、またはそれ以外であろうと、ソフトウェアに起因または関連し、あるいはソフトウェアの使用またはその他の扱いにより生じる一切の請求、損害、その他の義務について何らの責任も負わないものとします。

本公示書に含まれたものを除き、著者名は、書面による事前の許可なしに、本ソフトウェアに関する広告や販促、使用またはその他の扱いに関連した使用をしないこととします。

Mako

Mako

これは、MIT ライセンス(<http://www.opensource.org/licenses/mit-license.php>)です。

Copyright (C) 2006, 2007, 2008 Michael Bayer and contributors. Mako は、Michael Bayer の登録商標です。

以下に定める条件に従い、本ソフトウェアおよび関連文書のファイル(以下「ソフトウェア」)の複製を取得するすべての人に対し、ソフトウェアを無制限に扱うことを無償で許可します。これには、ソフトウェアの複製を使用、複写、変更、結合、掲載、配布、サブライセンス、および/または販売する権利、およびソフトウェアを提供する相手に同様の許可をする権利も無制限に含まれます。

上述の著作権表示および本許諾表示を、ソフトウェアのすべての複製または重要な部分に記載するものとします。

ソフトウェアは「現状のまま」で、明示であるか暗黙であるかを問わず、何らの保証もなく提供されます。この場合の

保証とは、商品性、特定の目的への適合性、および権利非侵害についての保証も含み、それに限定されるものではありません。著者ないしは著作権所持者は、契約行為、不法行為、またはそれ以外であろうと、ソフトウェアに起因または関連し、あるいはソフトウェアの使用またはその他の扱いにより生じる一切の請求、損害、その他の義務について何らの責任も負わないものとします。

OpenLDAP

OpenLDAP

Copyright 1998-2009 The OpenLDAP Foundation

無断複写・複製・転載を禁ず

ソースコードおよびバイナリ形式による再配布と再利用は、修正の有無に関わらず、OpenLDAP Public License により認証されている場合にのみ許可されます。

本ライセンスの複写は、配布のトップレベルディレクトリ内にある LICENSE ファイルまたは、<http://www.OpenLDAP.org/license.html> からご利用頂けます。

OpenLDAP は、OpenLDAP Foundation の登録商標です。

個々のファイルおよび/または寄稿されたパッケージは、他の関係者および/または更なる制限とともに著作権で保護されている場合があります。

本作品は、ミシガン大学 LDAP v3.3 配布から派生しています。本ソフトウェアに関する情報は、<http://www.umich.edu/~dirsvcs/ldap/ldap.html> からご利用頂けます。

本作品はまた、公共の情報からの資料も含まれています。

OpenLDAP に関する詳細は、<http://www.openldap.org/>よりご利用頂けます。

Portions Copyright 1998-2006 Kurt D. Zeilenga.

Portions Copyright 1998-2006 Net Boolean Incorporated.

Portions Copyright 2001-2006 IBM Corporation.

All rights reserved 無断複写・複製・転載を禁ず

ソースコードおよびバイナリ形式による再配布と再利用は、修正の有無に関わらず、OpenLDAP Public License により認証されている場合にのみ許可されます。

Portions Copyright 1999-2005 Howard Y.H. Chu.

Portions Copyright 1999-2005 Symas Corporation.

Portions Copyright 1998-2003 Hallvard B. Furuseth.

All rights reserved 無断複写・複製・転載を禁ず

ソースコードおよびバイナリ形式による再配布と再利用は、修正の有無に関わらず、本通知の維持を条件として満たす場合に許可されます。

著作権者名は、書面による事前の許可なしに、本ソフトウェアから派生する商品を是認または促進するために使用しないこととします。本ソフトウェアは、「現状のまま」で、明示または暗黙を問わず、何らの保証もなく提供されます。

Portions Copyright (c) 1992-1996 Regents of the University of Michigan.

All rights reserved 無断複写・複製・転載を禁ず

ソースコードおよびバイナリ形式による再配布と再利用は、本通知が Ann Arbor が先頭とするミシガン大学への称賛が維持されることを条件として満たす場合に許可されます。大学名は、書面による事前の許可なしに、本ソフトウェアから派生する商品を容認または促進するために使用しないこととします。本ソフトウェアは、「現状のまま」で、明示または暗黙を問わず、何らの保証もなく提供されます。

OpenSSL

OpenSSL

ライセンス問題

==

OpenSSL toolkit は、デュアルライセンスで、OpenSSL ライセンスと元の SSLeay ライセンスが toolkit に適用される形態です。

以下の実際のライセンステキストをご覧ください。事実、両ライセンスともに BSD-style Open Source です。OpenSSL に関するライセンス問題がある場合は、openssl-core@openssl.org までご連絡ください。

OpenSSL ライセンス

=====

Copyright (c) 1998-2005 The OpenSSL Project. All rights reserved 無断複写・複製・転載を禁ず

ソースコードおよびバイナリ形式による再配布と再利用は、修正の有無に関わらず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

1. ソースコードの再配布には、上述の著作権揭示、この条件リスト、以下の免責文を含めることが必要です。
2. バイナリ形式で再配布する場合には、上述の著作権揭示、この条件リスト、以下の免責文を書類、および / もしくは再配布の際に提供するその他の媒体に含める必要があります。
3. このソフトウェアの機能または使用について言及するすべての広告用材料には、次の謝辞を表示する必要があります。

ります。「本製品には、OpenSSL Toolkit で使用するために OpenSSL Project によって開発されたソフトウェアが含まれています (<http://www.openssl.org/>) 」。

4. 書面による事前の許可がない場合は、「OpenSSL Toolkit」と「OpenSSL Project」の名前を、このソフトウェアから派生した製品の保証または販売促進に使用してはいけません。書面による許可が必要な場合は、openssl-core@openssl.org に連絡してください。

5. OpenSSL Project による事前の書面による許可がない場合は、このソフトウェアから派生した製品を「OpenSSL」と呼び、それらの製品の名前に「OpenSSL」を含めることはできません。

6. いかなる形の再配布にも、次の謝辞を表示する必要があります。「本製品には、OpenSSL Toolkit で使用するために OpenSSL Project によって開発されたソフトウェアが含まれています (<http://www.openssl.org/>) 」。

このソフトウェアは THE OpenSSL PROJECT より、「現状のまま」、市販性および特定目的との適合性などの点を含む、ただしこれに限定されない、明示的または暗示的な保証をすることなく提供されています。いかなる場合でも、損害が生じる可能性について報告を受けていたとしても、契約、厳格責任、または不法行為 (過失、その他を含む) であろうと本ソフトウェアの使用により生じる、または責任の法理が適用される直接的、間接的、偶発的、特別、典型的、結果的なあらゆる損害(代用品またはサービスの調達、使用不能、データまたは利益の損失、または事業中断などを含み、これに限定されない)に対して、THE OpenSSL PROJECT およびその貢献者は一切責任を負いません。

=====

本製品は、Eric Young (eay@cryptsoft.com)が作成した暗号ソフトウェアを含みます。本製品は、Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)が作成したソフトウェアを含みます。

SSLeyay オリジナルライセンス

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)

無断複写・複製・転載を禁ず

本パッケージは、Eric Young (eay@cryptsoft.com)が記述した SSL 実装です。本実装は、Netscapes SSL と一致するよう記述されています。

本ライブラリは、以下の条件に従うことを前提に、営利および非営利使用に無料でご利用頂けます。以下の条件は本配布に含まれるすべてのコード、つまり SSL コードに限らず、RC4、RSA、Ihash、DES などに適用されます。本配布に含まれる SSL ドキュメントは、著作権所持者が Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)であることを除き、同様の著作権条項で保護されています。

著作権は Eric Young に帰属するため、コードに著作権表示を省くことは出来ません。本パッケージが、製品に使用される場合は、使用するライブラリに著者として Eric Young を明記する必要があります。プログラム起動時のテキストメッセージ、またはパッケージに含まれるドキュメント(オンラインまたはテキスト)にも明記してください。

1. ソースコードおよびバイナリ形式による再配布と再利用は、修正の有無に関わらず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

2. バイナリ形式の再配布には、上述の著作権揭示、この条件リスト、以下の免責文を書類、および / もしくは再

配布の際に提供するその他の媒体に含める必要があります。

3. このソフトウェアの機能または使用を言及するすべての広告用材料には、次の謝辞を表示する必要があります。「本製品には、Eric Young 氏 (eay@cryptsoft.com) が作成した暗号化ソフトウェアが含まれています」。使用するライブラリからのルーチンが暗号化に関係ない場合は、「暗号化」という語句を省略できます。

4. apps ディレクトリ (アプリケーションコード) から Windows 特有のコード (またはその派生物) を組み込む場合は、次の謝辞を含める必要があります。「本製品には、Tim Hudson 氏 (tjh@cryptsoft.com) が作成したソフトウェアが含まれています」。

このソフトウェアはERIC YOUNGより、「現状のまま」、市販性および特定目的との適合性などの点を含む、ただしこれに限定されない、明示的または暗示的な保証をすることなく提供されています。いかなる場合でも、損害が生じる可能性について報告を受けていたとしても、契約、厳格責任、または不法行為 (過失、その他を含む) であろうと本ソフトウェアの使用により生じる、または責任の法理が適用される直接的、間接的、偶発的、特別、典型的、結果的なあらゆる損害(代用品またはサービスの調達、使用不能、データまたは利益の損失、または事業中断などを含み、これに限定されない)に対して、著者または貢献者は一切責任を負いません。

本コードの公的に利用できるバージョンやデリバティブのためのライセンスおよび配布条項を変更することはできません。つまり、本コードは、単純に別の配布ライセンス(GNU Public Licence など)に複写または挿入することはできません。

Pcre

Pcre

PCREライセンス

PCREは、関数ライブラリで、正規表現をサポートし、Perl 5言語の構文および動作にできるだけ近くなるようにします。

PCRE のリリース 7 は、以下の「BSD」ライセンスの条項に従って配布されています。PCRE のドキュメントは、「doc」ディレクトリにあり、ソフトウェアと同じ条項で配布されています。

基本ライブラリ関数は、C 言語で記述される独立構造です。配布には C++ラッパー関数も含まれています。

基本ライブラリ関数

著者: Philip Hazel

メールのローカルパート: ph10

メールアドレス: cam.ac.uk

University of Cambridge Computing Service,

Cambridge, England. Phone: +44 1223 334714.

Copyright (c) 1997-2009 University of Cambridge

All rights reserved 無断複写・複製・転載を禁ず

C++ラッパー機能

Contributed by: Google Inc.

Copyright (c) 2007-2008, Google Inc.

All rights reserved 無断複写・複製・転載を禁ず

「BSD」ライセンス

ソースコードおよびバイナリ形式による再配布と再利用は、修正の有無に関わらず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

- ソースコードの再配布には、上述の著作権揭示、この条件リスト、以下の免責文を含めることが必要です。
- バイナリ形式の再配布には、上述の著作権揭示、この条件リスト、以下の免責文を書類、および / もしくは再配布の際に提供するその他の媒体に含める必要があります。
- ケンブリッジ大学、グーグル社名さらに貢献者名のいずれも、書面による事前の許可なしに、本ソフトウェアから派生する商品を容認または促進するために使用しないこととします。

このソフトウェアは著作権所持者より、「現状のまま」、市販性および特定目的との適合性などの点を含む、ただしこれに限定されない、明示的または暗示的な保証をすることなく提供されています。いかなる場合でも、損害が生じる可能性について報告を受けていたとしても、契約、厳格責任、または不法行為（過失、その他を含む）であろうと本ソフトウェアの使用により生じる、または責任の法理が適用される直接的、間接的、偶発的、特別、典型的、結果的なあらゆる損害(代用品またはサービスの調達、使用不能、データまたは利益の損失、または事業中断などを含み、これに限定されない)に対して、著者および貢献者は一切責任を負いません。

完了

Pyopenssl

Pyopenssl

GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書

バージョン 2.1、1999 年 2 月

Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.

59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

[この利用許諾契約書を、一字一句そのままに複製し配布することは許可する。しかし改変は認めない。]

はじめに

ソフトウェア向けライセンスの大半は、ユーザーがそのソフトウェアを共有および変更する自由を奪うよう設計されています。対照的に、各種の GNU 一般公衆利用許諾契約書は、ユーザーがフリーソフトウェアを共有および改変する自由を保証し、ソフトウェアがそのすべてのユーザーにとって自由であることを保証することを目的としています。

このライセンス、「劣等一般公衆利用許諾契約書」は、フリーソフトウェア財団およびこの契約書を適用すると決めたフリーソフトウェア財団以外の著者による特定のソフトウェアパッケージ(典型的にはライブラリ)のいくつかに適用されます。ユーザーもこの契約書を適用することができますが、最初に、特定の用途においてこの契約書および通常の一般公衆利用許諾契約書のどちらを適用するのが戦略としてより優れているかを、以下の説明に即して慎重に検討してください。

ここで言うフリーソフトウェアとは、利用の自由について言及しているのであり、価格のことではありません。この一般公衆利用許諾契約書は、ユーザーがフリーソフトウェアの複製を配布する自由を保証するよう設計されています(希望に応じてその種のサービスに手数料を課す自由も保証される)。また、ユーザーがソースコードを入手する、または希望に応じて取得が可能であり、ソフトウェアを変更してその一部を新しいフリーのプログラムに利用できるということ、さらには、そのような行為をユーザーができることを告知することも保証しています。

ユーザーの権利を守るため、配布者がユーザーに対してこのような権利を拒否する、または放棄するよう依頼することを禁止するという制限を加える必要があります。したがって、ユーザーがライブラリの複製物を配布および変更する場合、このような制限によりユーザーにある程度の責任が発生します。

例えば、ユーザーがライブラリの複製物を配布する場合、有料または無料かに関わらず、ユーザーは与えられたすべての権利を受領者に与えなければなりません。同様に、受領者にもソースコードを入手または取得できるよう保証しなければなりません。ユーザーがライブラリと他のコードをリンクする場合は、受領者がライブラリに変更を加えてそれを再コンパイルした後にコードをライブラリと再リンクできるよう、完全なオブジェクトファイルを提供しなければなりません。また、後述の条件を示すことにより、利用者に与えられる権利について知らせる必要があります。

ユーザーの権利は、(1) ライブラリの著作権は作成者に帰属する、(2) このライセンスの提供により、ユーザーにライブラリを複製、配布、または改変について法的な許可を与えるという2段階で保護されています。。

個々の配布者を保護するため、フリーなライブラリには何の保証も無いということを極めて明確にしたいと思います。また、ライブラリが別の誰かにより変更され、それが配布された場合、受領者に入手したライブラリがオリジナルでは無いことを知らせ、他人により作られた問題が原著者に影響を及ぼさないようにしたいと思います。

最後に、フリーソフトウェアの存在には常にソフトウェア特許の脅威がのしかかっていますが、一企業が特許保有者から制約付きのライセンスを取得して、フリープログラムのユーザーを事実上制

限するようなことがないことを希望しています。ここでは、ライブラリで得たいかなる特許ライセンスも、このライセンスで規定されている利用の自由を完全に満たしていなければならないことを強く要求します。

一部のライブラリを含め、GNU ソフトウェアのほとんどは通常の GNU 一般公衆利用許諾契約書により保護されています。このライセンス、「GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書」は、特定のライブラリに適用されるものであり、通常の一般公衆利用許諾書とはかなり異なります。つまり、このライセンスは、特定のライブラリに適用し、それをフリーでないプログラムとリンクすることを許可しています。

プログラムがライブラリとリンクされる場合、それが固定リンクまたは共有ライブラリとして使用されるかを問わず、両者の組み合わせは法的に結合物、つまり元のライブラリの派生物となります。

このような場合、通常の一般公衆利用許諾書では、結合物全体がライセンスの規定する自由の基準に適合する場合のみそのようなリンクを許可しています。一方、劣等一般公衆利用許諾書では、ライブラリと他のコードとのリンク許可に関して、広い基準を提供しています。

このライセンスを「劣等」一般公衆利用許諾契約書と呼びますが、これはこのライセンスが、ユーザーの自由を護るということについて通常の一般公衆利用許諾契約書よりも「劣る」からです。また、このライセンスはフリーでないプログラムと競争する上で、他のフリーソフトウェアの開発者により小さな優位性しかもたらしません。このような不利な点を踏まえて、多くのライブラリに通常の一般公衆利用許諾契約書を適用しています。しかし、ある特殊な状況下では劣等ライセンスを適用した方が有利なこともあります。

例えば、稀なこととは言え、特定のライブラリがデファクトスタンダードになるため、そのライブラリを可能な限り広範囲に利用するよう促進する必要が生じることがあります。これを達成するためには、フリーでないプログラムでもライブラリが使えるよう許可しなければなりません。また、よくある事例として、フリーライブラリが、広く使われているフリーでないライブラリと同じ機能を提供するという場合があります。この場合、フリーライブラリをフリーソフトウェアに限定した使用にしても得られるものはほとんどないため、劣等一般公衆許諾契約書を適用します。

ほかにも、ある特定のライブラリをフリーでないプログラムで利用可能にすると、より多くの方がフリーソフトウェアを広範囲に使うことが可能となる場合があります。例えば、GNU C ライブラリをフリーでないプログラムで利用する許可を与えれば、より多くの方が GNU オペレーティングシステム全体、さらには同様にその変形である GNU/Linux オペレーティングシステムも使えるようになります。

劣等一般公衆利用許諾書がユーザーの自由を保護するという点で「劣る」ものであっても、GPL で保護されたライブラリとリンクされているプログラムのユーザーが、そのプログラムをライブラリの修正版を使って実行する自由とそのために必要な手段を有することは十分に保証されます。

複製、配布、変更についての正確な条件および制約は後述します。「ライブラリを基にした著作物」および「ライブラリを利用する著作物」の違いによく注意してください。前者はライブラリのコードを利用し、後者では実行にライブラリとの結合が必要であることを意味しています。

GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書

複製、配布、変更に関する条件と制約

0. この利用許諾契約は、そのソフトウェアライブラリ (またはその他のプログラム)をこの劣等一般公衆利用許諾契約書(「この契約書」とも表記)の定める条件の下で配布することができる、という告知が著作権者またはその他の正当な権利を持つ団体により記載されたソフトウェアライブラリまたはその他のプログラムに適用されることを定めます。それぞれの契約者は「ライセンシー」と表現される。

「ライブラリ」とは、ソフトウェア関数やデータを集めたもので、(ライブラリに含まれるいくつかの関数やデータを利用する)アプリケーションプログラムとリンクした実行形式の作成用に準備されたものを意味する。

以下で「ライブラリ」と表記した場合は、この契約書で指定された条件に従って配布されるソフトウェアライブラリまたはそのような著作物全般を意味する。「ライブラリを基にした著作物」とは、ライブラリまたは著作権法が規定するその派生物すべてのいずれを指す。つまり、ライブラリまたはその一部を、そのまま、一部変更、または直接他言語に翻訳された形で含める著作物を指す(「変更」という語句の本来の意味から逸脱するが、以下では翻訳も変更の一種とする)。

ある著作物の「ソースコード」とは、それに対して変更を加える上で好ましいとされる著作物の形式を意味する。あるライブラリの完全なソースコードとは、それに含まれるモジュールのすべてのソースコードに加え、関連するすべてのインターフェース定義ファイルおよびライブラリのコンパイル、インストールを制御するために使われるスクリプトも含めたものを意味する。

複製、配布、変更以外の操作はこの契約書では適用されない。それらはこの契約書の対象外である。

ライブラリを利用するプログラムを実行する行為自体に制限はない。また、そのようなプログラムの出力結果は、その内容がライブラリを基にした著作物を構成する場合のみこの契約書により保護される(プログラムの記述に使われるツールのライブラリの利用は無関係)。このような線引きの妥当性は、ライブラリの動作(機能)およびライブラリを利用するプログラムの動作(機能)に依存する。

1. 各複製物において著作権表示と保証の否認声明を目立つよう適切に掲載し、またこの契約書および一切の保証の不在に触れた告知すべてをそのまま残し、この契約書の複製物をライブラリと共に配布する限り、ライセンシーはライブラリの完全なソースコードの複製物を、受領したままの形で複製または配布することができる。媒体は問わない。

ライセンシーは、複製を譲渡するという物理的行為について手数料を課すことができる。また、希望により手数料の見返りに保護の保証を提供することもできる。

2. ライセンシーは自作のライブラリの複製物またはその一部を改変してライブラリを基にした著作物を形成し、そのような変更点や著作物を上記第1節の定める条件の下で複製または配布することができる。ただし、それには以下の条件すべてを満たす必要がある。

a) 変更された著作物はそれ自身がソフトウェアライブラリであること。

b) ファイルの変更期日が良く分かるよう、変更されたファイルに告示すること。

c) いかなる第三者に対しても、著作物全体をこの契約書の定める条件に従って利用することを無償で許可すること。

d) 変更したライブラリに含まれる機能が、その機能を利用するアプリケーションプログラムから提供される関数ないしデータのテーブルを参照する場合（機能が実行される際に引数として渡される場合は除く）、アプリケーションがそのような関数やテーブルを提供しない場合でもその機能が依然動作し、その目的のどの一部分についても意味のある処理を行い続けるよう保証するべく十分に誠実な努力をしなければならない。

例えば、あるライブラリに平方根を計算する関数が含まれている場合、その関数はアプリケーションからみて明確かつ完全に独立した目的を持つ必要がある。そこで、2d では、この関数が使用するいかなるアプリケーション提供の関数またはテーブルも必須でないことを要求している。つまり、アプリケーションがそれらを提供しない場合でも、平方根関数は依然として平方根を計算できなければならない。)

以上の必要条件は全体的に変更のある著作物に適用される。著作物の一部がライブラリから派生したものではなく、それが独立した著作物であると考えられ、ライセンシーがそれらを別の著作物として分けて配布する場合、該当部分にはこの契約書とその条件は適用されない。ただし、ライセンシーが同じ部分をライブラリを基にした著作物全体の一部として配布する場合は、全体的な配布物は、この契約書が課す条件に従わなければならない。つまり、この契約書が他の契約者に与える許可はライブラリ全体におよび、著者に関係なく各部分のすべてを保護することができる。

したがって、すべてライセンシーが記述した著作物に対し、権利を主張する、またはライセンシーの権利に異議を申し立てることはこの節の意図するところではない。むしろ、その趣旨はライブラリを基にした派生物ないし集合著作物の配布を管理する権利を行使するということにある。

また、ライブラリを基にしていないその他の著作物をライブラリ(またはライブラリを基にした著作物)と一緒に集めただけのものを一巻の保管装置または配布媒体に収めても、その他の著作物までこの契約書が保護する対象になるということにはならない。

3. ライセンシーはライブラリのあるコピーに対して、このライセンスの代わりに通常の GNU 一般公衆利用許諾契約書の条件を適用することができる。そのためには、このライセンスに言及するすべての告知を、このライセンスではなく通常の GNU 一般公衆利用許諾書バージョン 2 を指すよう変更しなければならない。(もし通常の GNU 一般公衆利用許諾契約書のバージョン 2 よりも新しいバージョンが存在する場合は、希望により代わりにそのバージョンを指定することができる)。これらの告知には、その他のいかなる改変も加えてはならない。

複製物にこの変更を施した後、その複製を元に戻すことはできない。そのため、その複製から作られた複製と派生著作物のすべてには通常の GNU 一般公衆利用許諾契約書が適用される。

このオプションは、ライセンシーがライブラリのコードの一部をライブラリではないプログラムの一部として複製する場合に便利である。

4. ライセンシーは上述の第 1 節および 2 節の条件に従い、ライブラリ(またはその一部、または第 2 節における派生物)をオブジェクトコードまたは実行形式で複製または配布することができる。ただし、その場合それに完全かつ機械で読み取り可能なソースコードを添付し、上述の第 1 節および 2 節の条件に従いソフトウェアの交換で慣習的に使われる媒体で配布しなければならない。

オブジェクトコードの配布が、アクセスする場所を指定してコピーする場合、同じ場所からそのソ

ースコードにもアクセス可能な場合は、第三機関がオブジェクトコードとソースを同時にコピーすることを認めていない場合でも、ソースコード配布の条件を満たすものとする。

5. ライブラリのいかなる部分の派生物も含まないが、コンパイルする、またはリンクすることによりライブラリと連動するようデザインされているプログラムは、「ライブラリを利用する著作物」と呼ばれる。そのような著作物は、単体ではライブラリの派生著作物ではないため、この契約書の範囲外とする。

ただし、「ライブラリを利用する著作物」にライブラリをリンクして実行形式を作成すると、それは「ライブラリを利用する著作物」ではなく、ライブラリの派生物となる(ライブラリの一部を含むため)。そのため、実行形式はこのライセンスで保護される。第6節ではそのような実行形式の配布条件を述べる。

「ライブラリを利用する著作物」が、ライブラリの一部であるヘッダファイルから採られたコード等を利用する場合、ソースコードはそうではなくても、その著作物をオブジェクトコードにしたものはライブラリの派生物になる可能性がある。これが真であるかは、その著作物がライブラリ抜きでもリンクされる場合、または著作物自体がライブラリの場合は特に重要である。これが真になるための閾値は法では正確には定義されていない。

そのようなオブジェクトファイルが、数字のパラメータやデータ構造のレイアウト、アクセス機構または小規模マクロや小規模インライン関数(10行以下の長さ)を利用する場合、そのオブジェクトファイルの利用は、それが法的に派生物とみなされる/みなされないに制限されない。(このオブジェクトコードに加えてライブラリの一部を含む実行形式は依然として第6節の条件下に置かれる)。

ほかにも、著作物がライブラリの派生物の場合、その著作物をオブジェクトコードにしたものを第6節の条件に従って配布することができる。そのようなオブジェクトコードが直接ライブラリとリンクされているかどうかを問わず、その著作物を含むいかなる実行形式の利用も第6節の条件に従わなければならない。

6. 上記各節の例外として、「ライブラリを利用する著作物」をライブラリと結合またはリンクして、ライブラリの一部を含む著作物を作成し、その著作物をライセンシーが選んだ条件の下で配布することもできる。その場合、ライセンシーの条件は、ユーザーは個人利用を目的に著作物を変更することは出来るが、変更をデバッグするためのリバースエンジニアリングは許可されない。

ライセンシーは、著作物の複製に、使用ライブラリを明記し、その利用はこのライセンスで保護されていることを述べた明確な告知を載せねばならない。また、ライセンシーはこのライセンスのコピーを一部提供しなければならない。著作物が実行時に著作権表示を表示する場合、そこにライブラリの著作権表示を含めなければならない。更にユーザーにこのライセンスのコピーの在処を示す参照文も含めなければならない。また、以下のいずれか一つを実施しなければならない：

a) 著作物には、すべての変更事項(その変更は上述の第1節および2節の条件に従って配布される)を含め、ライブラリの対応する完全かつ機械で読み取り可能なソースコードを添付する。

著作物がライブラリとリンクされる実行形式の場合、著作物を完全かつ機械読み取り可能な

「ライブラリを利用する著作物」のオブジェクトコードあるいはソースコード(どちらかでも可)と一緒にし、ユーザーがライブラリを変更した後に再リンクして、変更されたライブラリを含む実行形式を作成できるようにする(ここでは、ライブラリに含まれる定義ファイルの内

容を変更したユーザーは、変更された定義を利用するためにアプリケーションを再コンパイルすることができる必要は必ずしも無い)。

b) ライブラリとのリンクに適切な共有ライブラリ機構を用いる。適切な機構とは (1) ライブラリ関数を実行形式にコピーするのではなく、実行時にすでにユーザーのコンピュータシステム上に存在するライブラリのコピーを利用し、そして (2) ユーザーがライブラリの修正版をインストールした場合でも、そのような修正版が著作物の作成バージョンとインターフェースで互換である限り、修正版のライブラリでも適切に動作すること。

c) 著作物のユーザーから、配布に必要なコストを上回らない程度の手数料を受け取り上述の小節 6a で指定と同等を示す 3 年以上有効な書面を添える。

d) 著作物の配布が、アクセス場所を指定してコピーする手段の場合、同等のアクセスを提供して、上述で指定した材料をコピーできるようにする。

e) ユーザーが上述で指定された材料のコピーをすでに受領している、またはライセンサーが既に送付していることを確認する。

実行形式について、「ライブラリを利用する著作物」は、実行形式を複製する際に必要なデータまたはユーティリティプログラムをすべて含めた形で配布されなければならない。特別な例外として、その部分自体が実行形式に付随するのでは無い限り、配布物に、実行形式が実行されるオペレーティングシステムの主要な部分(コンパイラやカーネル等)と通常一緒に(ソースがバイナリ形式のどちらかで)配布されるものすべてを含める必要はないとする。

この必要条件は、オペレーティングシステムには通常付随しない、その他の独占的なライブラリの

ライセンスの制限と矛盾する場合がある。そのような矛盾が生じた場合、ライセンシーが配布する実行形式でその独占的なライブラリおよびライブラリの両方を使えないことを意味する。

7. ライセンシーは、ライブラリを基にした著作物であるライブラリの一部分を、このライセンスで保護されていない他のライブラリの一部分と共に1つのライブラリに共存させることができ、その結合型ライブラリを配布することができる。ただし、その場合ライブラリを基にした著作物とその他のライブラリの部分を分離した配布も許可されていなければならない。また以下の二点を行わなければならない。

a) 結合されたライブラリに、同じライブラリを基にした著作物の、他のいかなるライブラリ機構とも結合していないコピーを添付する。これは上述の各節の条件の下で配布されなければならない。

b) 結合されたライブラリに、その一部がライブラリを基にした著作物であるという事実と、同じ著作物の対応する結合されていない形式の所在が明確に分かるた告知を載せる。

8. ライセンシーはライブラリを、この契約書において明確に提示された行為を除き、複製および変更、サブライセンス、リンク、あるいは配布してはならない。他にライブラリを複製および変更、サブライセンス、リンク、あるいは配布すると、すべてが無効となり、この契約書におけるライセンシーの権利が自動的に終結される。ただし、複製物および権利をこのライセンスに従ってライセンシーから得た人物に関しては、その人物がこの契約書に完全に従っている限りライセンスが終結されない。

9. ライセンシーは、この契約書に署名しない限り、この内容を受諾する必要は無い。ただし、

他にライセンシーに対してライブラリおよびその派生物の変更または配布を許可するものは存在しない。これらの行為は、ライセンシーがこの契約書を受け入れない限り法律で禁じられている。したがって、ライブラリ(またはライブラリを基にした著作物全般)を変更または配布することにより、ライセンシーは自分がそのような行為を行うためにこの契約書を受諾したとみなされ、ライブラリおよびそれに基づく著作物の複製、配布、変更についてこの契約書が課す制約および条件をすべて受け入れたとみなされる。

10. ライセンシーがライブラリ(またはライブラリを基にした著作物全般)を再配布するとき、その受領者は元のライセンス許可者から、この契約書で指定された条件と制約の対象となるライブラリを、複製、配布、リンク、または変更する許可を自動的に得るものとする。ライセンシー、受領者がここで認められた権利を行使することに関してこれ以上他のいかなる制限も課してはならない。ライセンシーには、第三者がこの契約書に従うことを強制する責任はない。

11. 特許侵害あるいはその他の理由(特許関係に限らない)から、裁判所の判決あるいは申し立ての結果としてライセンシーに(裁判所命令や契約など)このライセンスの条件と矛盾する制約が課された場合でも、ライセンシーこの契約書の条件を免除されるわけではない。もしこの契約書の下でライセンシーに課せられた責任と他の関連する責任を同時に満たすような形で配布できない場合は、ライブラリを配布することが全くできない。例えば、特許ライセンスで、直接/間接を問わず、コピーを受け取った人間が誰でもライブラリを使用料無料で再配布することを認めていない場合、その制約とこのライセンスの両方を満たすためには、ライブラリの配布を完全に中止しなければならない。

この節の一部分が特定の状況の下で無効または実施不可能な場合でも、残りの節は適用される。その他の状況では節が全体として適用される。

この節は、特許およびその他の財産権を侵害する、またはそのような権利の主張の効力に異議を唱えることを奨励しているのではない。この節には、公共のライセンス慣行で行われてきた、フリーソフトウェア配布システムの整合性を守ることが目的である。多くの人々が、フリーソフトウェア配布システムの一貫性のある運用に基づいて配布される幅広いソフトウェアに寛大な貢献をしてきたが、人がどのようなシステムを通じてソフトウェアを配布するかはあくまでも著者/寄与者次第であり、ライセンシーが強要するものではない。

この節では、この契約書の別の節の結果と考えられる内容について詳しく追求する。

12. 許または著作権のあるインタフェースのいずれかにより特定の国においてライブラリの配布および利用が制限されている場合、ライブラリにこの契約書を適用した元の著作権者は、該当する国を排除した明確な地理的配布制限を加え、排除されていない国または国間でのみ配布が許可されるようにすることができる。その場合、この制限はこの契約書本文の記述と同様と見なされる。

13. フリーソフトウェア財団は、時々、改定したまたは新版の劣等一般公衆利用許諾書を発表することができる。そのような新版は現在のバージョンとその精神においては同等であるが、新たな問題や懸念を解決するため細部では異なる可能性がある。

各バージョンには、見分けが付くようにバージョン番号が付けられる。ライブラリにおいてそれに適用されるこの契約書のバージョン番号を指定し、更に「それ以降のいかなるバージョン」も適用

して良い場合、従う条件および制約に、指定のバージョンか、フリーソフトウェア財団により発行された指定のバージョン以降のいずれかを選ぶことができる。ライブラリでライセンスのバージョン番号が指定されていない場合、これまでにフリーソフトウェア財団から発行されたバージョンから自由に選択できる。

14. ライブラリの一部を、その配布条件がこの契約書と矛盾する他のフリープログラムと統合する場合は、著者に連絡して許可を求ることが必要である。フリーソフトウェア財団が著作権を保有するソフトウェアについては、フリーソフトウェア財団に連絡すること。このような場合のために特別な例外を設けることもある。その決定は、該当フリーソフトウェアの派生物すべてがフリーな状態に保たれるということ、および一般的にソフトウェアの共有と再利用を促進するという2つの目標を規準に検討される。

無保証について

15. ライブラリは無償ライセンスのため、適切な法が認める限りにおいて、ライブラリに関するいかなる保証も存在しない。書面で別に述べる場合を除き、著作権者またはその他の団体はライブラリを、「現状のまま」、市販性および特定目的との適合性などの点を含む、ただしこれに限定されない、明示的または暗示的な保証をすることなく提供する。ライブラリの品質と性能に関するすべてのリスクは利用者に帰属する。ライブラリに欠陥があると判明した場合、利用者は必要な保守点検、補修、修正に要するコストのすべてを引き受けることとする。

16. 適切な法律または書面による同意によりて明示されない限り、著作権者または上述の許可通りにライブラリを変更または再配布するその他の団体は、利用者に対してライブラリの利用また

は利用不能で生じた一般的、特別的、偶然的、必然的な損害(データ消失、不正確な処理、第三者が被った損失、またはライブラリが他のソフトウェアと一緒に動作しないなどの不具合を含むがそれらに限定されない)に対して、損害が生じる可能性について報告を受けていたとしても、一切の責任を負わない。

利用規約の終了

利用規約を新しいライブラリに適用する方法

新しいライブラリを開発した場合、その公衆利用の可能性を最大にしたい場合は、そのライブラリを誰でも再配布または変更可能にするフリーソフトウェアにすることをお勧めします。ライブラリの再配布を上述の条件(または代わりに通常の一般公衆利用許諾契約書)の下で許可することにより、ライブラリをフリーソフトウェアにすることができます。

上述の条件を適用するには、以下で示す告知をライブラリに付け加えます。保証が存在しないということを実に伝えるという意味で、それぞれのソースファイルの先頭にこれらの告知を付け加えることが最も安全な方法です。また、それぞれのファイルには少なくとも「著作権」と完全な告知の場所を示すポインタを必ず添えつけてください。

One line to give the library's name and an idea of what it does.

Copyright (C) year name of author

This library is free software; you can redistribute it and/or

modify it under the terms of the GNU Lesser General Public

License as published by the Free Software Foundation; either
version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful,
but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of
MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU
Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public
License along with this library; if not, write to the Free Software
Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

(訳: ライブラリ名と、その機能に関する簡単な説明。

Copyright (C) 年 著者名

このライブラリはフリーソフトウェアです。これを、フリーソフトウェア財団の発行する GNU 劣
等一般公衆利用許諾契約書(バージョン 2.1、またはそれ以降のバージョンのいずれかを希望で明記)
の定める条件の下で再配布または変更することができます。

このライブラリは有効利用されることを期待されていますが、市販性および特定目的との適合性な
どの点を含む黙示の保証も含め「保証は一切付いていません」。詳しくは GNU 劣等一般公衆利用
許諾契約書をご覧ください。

このライブラリは、一部の GNU 劣等一般公衆利用許諾契約書の複製物が添付されています。含まれていない場合は、フリーソフトウェア財団までご請求ください(宛先 : Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA)。

また、電子メールアドレスまたは郵送用の住所など、問い合わせ用の情報も書き加えてください。

必要に応じて、雇用主(プログラマーの場合)、または学校から、そのライブラリに関する「著作権放棄声明(copyright disclaimer)」への署名を受けてください。以下は例です。名前を差し替えてお使いください。

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in

the library Frob' (a library for tweaking knobs) written

by James Random Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1990

Ty Coon, President of Vice

(訳: Yoyodyne, Inc.,はここに、James Random Hacker 氏を書いたライブラリ「Frob」(ノブをひねるためのライブラリ)に関するすべての著作権を放棄します。

Ty Coon 氏の署名、1990 年 4 月 1 日

Ty Coon、副社長者

これで、必要なものがすべて揃いました！

Python

Python

これは、Python 2.6.2 リリース用正式ライセンスです。

A. 本ソフトウェアの歴史

=====

Python は 1990 年代の始め、オランダの Stichting Mathematisch Centrum (CWI, <http://www.cwi.nl/> 参照)で Guido van Rossum により ABC と呼ばれる言語の後継言語として生み出されました。その後、多くの人々が Python に貢献していますが、今日でも Guido は Python 製作者として挙げられています。

1995 年、Guido は米国ヴァージニア州レストンにある Corporation for National Research Initiatives (CNRI, <http://www.cnri.reston.va.us/> 参照)で Python の開発に携わり、いくつかのバージョンをリリースしました。

2000 年 5 月、Guido と Python のコア開発チームは BeOpen.com に移り、BeOpen PythonLabs チームを結成しました。同年 10 月、PythonLabs チームは Digital Creations (現在の Zope Corporation, <http://www.zope.com/> 参照)に移り、2001 年、Python に関する知的財産を保有するための非営利組織 Python Software Foundation (PSF, <http://www.python.org/psf/> 参照)を立ち上げました。このとき Zope Corporation は PSF の賛助会員になっています。

Python のリリースは、すべてオープンソース (オープンソースの定義は <http://www.opensource.org/> を参照してください)です。歴史的に、ごく一部を除くほとんどの Python リリースは GPL 互換です。各リリースについては下表を参照してください。

リリース	ベース	年	権利	GPL互換 (1)
0.9.0 thru 1.2		1991-1995	CWI	yes
1.3 thru 1.5.2	1.2	1995-1999	CNRI	yes
1.6	1.5.2	2000	CNRI	no
2.0	1.6	2000	BeOpen.com	no
1.6.1	1.6	2001	CNRI	yes (2)
2.1	2.0+1.6.1	2001	PSF	no
2.0.1	2.0+1.6.1	2001	PSF	yes
2.1.1	2.1+2.0.1	2001	PSF	yes
2.2	2.1.1	2001	PSF	yes
2.1.2	2.1.1	2002	PSF	yes
2.1.3	2.1.2	2002	PSF	yes
2.2.1	2.2	2002	PSF	yes
2.2.2	2.2.1	2002	PSF	yes
2.2.3	2.2.2	2003	PSF	yes
2.3	2.2.2	2002-2003	PSF	yes
2.3.1	2.3	2002-2003	PSF	yes
2.3.2	2.3.1	2002-2003	PSF	yes
2.3.3	2.3.2	2002-2003	PSF	yes
2.3.4	2.3.3	2004	PSF	yes
2.3.5	2.3.4	2005	PSF	yes
2.4	2.3	2004	PSF	yes
2.4.1	2.4	2005	PSF	yes
2.4.2	2.4.1	2005	PSF	yes
2.4.3	2.4.2	2006	PSF	yes
2.5	2.4	2006	PSF	yes

脚注:

(1) 「GPL 互換」という表現は、Python が GPL で配布されているという意味ではありません。Python のライセンスは全て、GPL と違い、変更したバージョンを変更をオープンソースを変更せずに配布可能となります。GPL 互換のライセンスの下では、GPL でリリースされている他のソフトウェアと Python を組み合わせられますが、それ以外のライセンスはそうではありません。

(2) リチャード・ストールマンによると、ライセンスに法選択の規定があることから 1.6.1 は GPL 互換ではありません。反面、CNRI は、ストールマンの弁護士が CNRI の弁護士に、1.6.1 は GPL と「互換性がないとはいえない」と伝えています。

Guido の指示の下、これらのリリースを可能にするためご尽力下さった多くのボランティアの皆様にご感謝いたします。

B. Python にアクセスし、またはその他の方法で Python を使用するための契約条件

=====

PSF ライセンス契約バージョン 2

1. 本ライセンス契約は、Python Software Foundation (以下「PSF」) と、ソースまたはバイナリ形式の本ソフトウェア (以下「Python」) およびその関連文書にアクセスし、またはその他の方法でそれらを使用する個人または組織 (以下「ライセンシー」) との間で交わされます。
2. 本ライセンス契約に定める諸条件に従い、PSF はライセンシーに対し、単体もしくは派生バージョンの Python を複製、解析、テスト、公然と実行および/または表示、派生成果物の作成、配布、その他の方法で使用する非独占的な、権利使用料無料の、世界規模のライセンスを付与します。ただし、単体またはライセンシーが作成する派生バージョンの Python に、PSF のライセンス契約、および PSF の著作権表示、すなわち「Copyright (c) 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006 Python Software Foundation; All Rights Reserved」を記載することを条件とします。
3. ライセンシーが、Python またはその一部を基にして、あるいはそれを組み込んで派生成果物を作成する場合で、かつ、ここに規定されているように派生成果物を公開する場合、ライセンシーは Python に加えた変更の要約を当該成果物に含めることに同意するものとします。
4. PSF は、Python を「現状のまま」でライセンシーに提供します。明示的または暗示的に関わらず、PSF はいかなる表明も保証も行いません。一例として、PSF は商品性または特定の目的への適合性について、あるいは Python の使用が第三者の権利を侵害しないかどうかについていかなる表明も保証も行わず、また一切の責任を負いません。
5. PSF は、ライセンシーまたは Python の他のすべての利用者に対し、Python もしくはその派生物を変更、配布、またはその他の方法で使用了ことに起因する一切の偶発的、特別、派生的損害または損失について何らの責任も負いません。PSF がその可能性について知らされていた場合も同様です。
6. 本契約中の諸条件の重大な違反があった場合、本ライセンス契約は自動的に失効します。
7. 本ライセンス契約により、PSF とライセンシーとの間に代理、提携、または合併の関係が生じることは一切ありません。本ライセンス契約は、ライセンシーあるいは第三者の製品またはサービスを容認または促進する目的で、

PSF の商標、もしくは商標の意味での商標名の使用を許可するものではありません。

8. Python を複製、インストール、またはその他の方法で使用するによって、ライセンシーは本ライセンス契約の定める諸条件に従うことに同意するものとします。

BeOpen.com の Python 2.0 の契約条件

BeOpen Python オープンソース・ライセンス契約 バージョン 1

1. 本ライセンス契約は、160 Saratoga Avenue, Santa Clara, CA 95051 に事務所を置く BeOpen.com (以下「BeOpen」) と、ソースまたはバイナリ形式の本ソフトウェアおよびその関連文書 (以下「ソフトウェア」) にアクセスし、またはその他の方法でそれらを使用する個人または組織 (以下「ライセンシー」) との間で交わされます。
2. 本 BeOpen Python ライセンス契約に定める諸条件に従い、BeOpen はライセンシーに対し、単体もしくは派生バージョンのソフトウェアを複製、解析、テスト、公然と実行および/または表示、派生成果物の作成、配布、その他の方法で使用する非独占的な、権利使用料無料の、世界規模のライセンスを付与します。ただし、単体またはライセンシーが作成する派生バージョンのソフトウェアに、BeOpen Python ライセンスを記載することを条件とします。
3. BeOpen は、ソフトウェアを「現状のまま」でライセンシーに提供します。明示的または暗示的に関わらず、BeOpen はいかなる表明も保証も行いません。一例として、BeOpen は商品性または特定の目的への適合性について、あるいはソフトウェアの使用が第三者の権利を侵害しないかどうかについていかなる表明も保証も行わず、また一切の責任を負いません。
4. BeOpen は、ライセンシーまたはソフトウェアの他のすべての利用者に対し、ソフトウェアまたはその派生物を使用、変更、配布に起因する一切の偶発的、特別、派生的損害または損失について何らの責任も負いません。BeOpen がその可能性について知らされていた場合も同様です。
5. 本契約中の諸条件の重大な違反があった場合、本ライセンス契約は自動的に失効します。
6. 本ライセンス契約は、法律の抵触条項を除いて、米国カリフォルニア州の法律の定めに従い、すべての点でこの法律に従って解釈されます。本ライセンス契約により、BeOpen とライセンシーとの間に代理、提携、または合弁の関係が生じることは一切ありません。本ライセンス契約は、ライセンシーあるいは第三者の製品またはサービスを容認または促進する目的で、BeOpen の商標、もしくは商標の意味での商標名の使用を許可するものではありません。例外として、<http://www.pythonlabs.com/logos.html> から入手できる「!BeOpen Python」のロゴは、当該 Web ページで与えられる許可に従って使用することができます。
7. ソフトウェアを複製、インストール、またはその他の方法で使用するによって、ライセンシーは本ライセンス契約の定める諸条件に従うことに同意するものとします。

1. 本ライセンス契約は、1895 Preston White Drive, Reston, VA 20191 に事務所を置く the Corporation for National Research Initiatives (以下「CNRI」)と、ソースまたはバイナリ形式の Python 1.6.1 ソフトウェアにアクセスし、またはその他の方法でそれらを使用する個人または組織(以下「ライセンシー」)との間で交わされます。
2. 本ライセンス契約に定める諸条件に従い、CNRI はライセンシーに対し、単体もしくは派生バージョンの Python 1.6.1 を複製、解析、テスト、公然と実行および/または表示、派生成果物の作成、配布、その他の方法で使用する非独占的な、権利使用料無料の、世界規模のライセンスを付与します。ただし、単体またはライセンシーが作成する派生バージョンの Python 1.6.1 に、CNRI ライセンス契約および CNRI 著作権の表示、つまり「Copyright (c) 1995-2001 Corporation for National Research Initiatives; All Rights Reserved」を記載することを条件とします。あるいは、CNRI のライセンス契約に代えてライセンシーは次の文言を使用することもできます(括弧を除く)。「Python 1.6.1 は、CNRI のライセンス契約の諸条件に従って提供されます。この契約は、Python 1.6.1 と共に、インターネット上で 1895.22/1013 という一意の永続的な識別名(ハンドルと呼ばれる)を使用して見つけることができます。また、<http://hdl.handle.net/1895.22/1013> という URL を使用して、この契約をインターネット上のプロキシ・サーバから入手することもできます。」
3. ライセンシーが、Python 1.6.1 またはその一部を基にして、あるいはそれを組み込んで派生成果物を作成する場合で、かつ、ここに規定されているように派生成果物を公開する場合、ライセンシーは Python 1.6.1 に加えた変更の要約を当該成果物に含めることに同意するものとします。
4. CNRI は、Python 1.6.1 を「現状のまま」でライセンシーに提供します。明示的または暗示的に関わらず、CNRI はいかなる表明も保証も行いません。一例として、CNRI は商品性または特定の目的への適合性について、あるいは Python 1.6.1 の使用が第三者の権利を侵害しないかどうかについていかなる表明も保証も行わず、また一切の責任を負いません。
5. CNRI は、ライセンシーまたは Python 1.6.1 の他のすべての利用者に対し、Python 1.6.1 もしくはその派生物を変更、配布、またはその他の方法で使ったことに起因する一切の偶発的、特別、派生的損害または損失について何らの責任も負いません。CNRI がその可能性について知らされていた場合も同様です。
6. 本契約中の諸条件の重大な違反があった場合、本ライセンス契約は自動的に失効します。

本ライセンス契約は、アメリカ合衆国の連邦知的財産法の定めに従います。これには連邦著作権法も無制限に含まれます。そうした合衆国連邦法が適用されない範囲については、バージニアの法律の抵触条項を除いて、バージニア州の法律の定めに従います。上記にかかわらず、以前に GNU 一般公有使用許諾 (GPL) のもとで配布された分離不可能な素材を組み込んでいる、Python 1.6.1 を基にした派生成果物に関しては、本ライセンス契約の第 4 項、第 5 項、および第 7 項のもとで、またはそれらの各項に関して生じる問題についてのみ、本ライセンス契約にバージニア州の法律が適用されるものとします。本ライセンス契約により、CNRI とライセンシーとの間に代理、提携、または合弁の関係が生じることは一切ありません。本ライセンス契約は、ライセンシーあるいは第三者の製品またはサービスを容認または促進する目的で、CNRI の商標、もしくは商標の意味での商標名の使用を許可するものではありません。

8. 表示されている「受諾する」ボタンをクリックする、または Python 1.6.1 を複製、インストール、またはその他の方法で使用するにより、ライセンシーは本ライセンス契約の定める諸条件に従うことに同意するものとします。

受諾する

PYTHON 0.9.0 から 1.2 に関する CWI ライセンス契約

Copyright (c) 1991 - 1995, Stichting Mathematisch Centrum Amsterdam, The Netherlands.

無断複写・複製・転載を禁ず

本ソフトウェアおよび関連文書を、目的を問わず無償で使用、複製、変更、および配布することを許可します。ただし、上述の著作権表示をすべての複製に記載すること、上述の著作権表示と本許諾文言の両方を関連文書に記載すること、および、事前に書面で明確な許可を受けることなく、ソフトウェアの配布に関する宣伝や広告に Stichting Mathematisch Centrum または CWI の名前を使用しないことを条件とします。

Stichting Mathematisch Centrum は、商品性および適合性についてのすべての暗黙の保証も含めて、本ソフトウェアに関する何らの保証もしません。契約行為、過失、または不法行為のいずれの状況であろうと、Stichting Mathematisch Centrum は、本ソフトウェアの使用または実行に起因もしくは関連する、使用機会、データ、または利益の喪失により生じる一切の特別、間接的、派生的損害、その他のあらゆる損害について何らの責任も負いません。

pywin32

pywin32

PSF ライセンスに該当する。

これは Python 2.6.2 リリース用の正式ライセンスです。

A. 本ソフトウェアの歴史

=====

Python は 1990 年代の始め、オランダの Stichting Mathematisch Centrum (CWI, <http://www.cwi.nl/> 参照)で Guido van Rossum により ABC と呼ばれる言語の後継言語として生み出されました。その後、多くの人々が Python に貢献していますが、今日でも Guido が Python 製作者として挙げられています。

1995 年、Guido は米国ヴァージニア州レストンにある Corporation for National Research Initiatives (CNRI, <http://www.cnri.reston.va.us/> 参照)で Python の開発に携わり、いくつかのバージョンをリリースしました。

2000 年 5 月、Guido と Python のコア開発チームは BeOpen.com に移り、BeOpen PythonLabs チームを結成しました。同年 10 月、PythonLabs チームは Digital Creations (現在の Zope Corporation, <http://www.zope.com/> 参照)に移り、2001 年、Python に関する知的財産を保有するための非営利組織 Python Software Foundation (PSF、

<http://www.python.org/psf/> 参照)を立ち上げました。このとき Zope Corporation は PSF の賛助会員になっています。

Python のリリースは、すべてオープンソース (オープンソースの定義は <http://www.opensource.org/> を参照してください) です。歴史的に、ごく一部を除くほとんどの Python リリースは GPL 互換です。各リリースについては下表を参照してください。

リリース	ベース	年	権利	GPL互換 (1)
0.9.0 thru 1.2	1991-1995	CWI	yes	
1.3 thru 1.5.2	1.2	1995-1999	CNRI	yes
1.6	1.5.2	2000	CNRI	no
2.0	1.6	2000	BeOpen.com	no
1.6.1	1.6	2001	CNRI	yes
(2)				
2.1	2.0+1.6.1	2001	PSF	no
2.0.1	2.0+1.6.1	2001	PSF	yes
2.1.1	2.1+2.0.1	2001	PSF	yes
2.2	2.1.1	2001	PSF	yes
2.1.2	2.1.1	2002	PSF	yes
2.1.3	2.1.2	2002	PSF	yes
2.2.1	2.2	2002	PSF	yes
2.2.2	2.2.1	2002	PSF	yes
2.2.3	2.2.2	2003	PSF	yes
2.3	2.2.2	2002-2003	PSF	yes
2.3.1	2.3	2002-2003	PSF	yes
2.3.2	2.3.1	2002-2003	PSF	yes
2.3.3	2.3.2	2002-2003	PSF	yes
2.3.4	2.3.3	2004	PSF	yes
2.3.5	2.3.4	2005	PSF	yes
2.4	2.3	2004	PSF	yes
2.4.1	2.4	2005	PSF	yes
2.4.2	2.4.1	2005	PSF	yes
2.4.3	2.4.2	2006	PSF	yes
2.5	2.4	2006	PSF	yes

脚注:

(1) 「GPL 互換」という表現は、Python が GPL で配布されているという意味ではありません。Python のライセンスは全て、GPL と違い、変更したバージョンを変更をオープンソースを変更せずに配布可能となります。GPL 互換のライセンスの下では、GPL でリリースされている他のソフトウェアと Python を組み合わせられますが、それ以外のライセンスはそうではありません。

(2) リチャード・ストールマンによると、ライセンスに法選択の規定があることから 1.6.1 は GPL 互換ではありません。反面、CNRI は、ストールマンの弁護士が CNRI の弁護士に、1.6.1 は GPL と「互換性がないとはいえない」と伝えていました。

Guido の指示の下、これらのリリースを可能にするためご尽力下さった多くのボランティアの皆様に感謝いたします。

B. Python にアクセスし、またはその他の方法で Python を使用するための契約条件

=====

PSF ライセンス契約バージョン 2

1. 本ライセンス契約は、Python Software Foundation (以下「PSF」) と、ソースまたはバイナリ形式の本ソフ

トウェア (以下「Python」) およびその関連文書にアクセスし、またはその他の方法でそれらを使用する個人または組織 (以下「ライセンサー」) との間で交わされます。

2. 本ライセンス契約に定める諸条件に従い、PSF はライセンサーに対し、単体もしくは派生バージョンの Python を複製、解析、テスト、公然と実行および/または表示、派生成果物の作成、配布、その他の方法で使用する非独占的な、権利使用料無料の、世界規模のライセンスを付与します。ただし、単体またはライセンサーが作成する派生バージョンの Python に、PSF のライセンス契約、および PSF の著作権表示、すなわち「Copyright (c) 2001, 2002, 2003, 2004, 2005, 2006 Python Software Foundation; All Rights Reserved」を記載することを条件とします。

3. ライセンサーが、Python またはその一部を基にして、あるいはそれを組み込んで派生成果物を作成する場合で、かつ、ここに規定されているように派生成果物を公開する場合、ライセンサーは Python に加えた変更の要約を当該成果物に含めることに同意するものとします。

4. PSF は、Python を「現状のまま」でライセンサーに提供します。明示的または暗示的に関わらず、PSF はいかなる表明も保証も行いません。一例として、PSF は商品性または特定の目的への適合性について、あるいは Python の使用が第三者の権利を侵害しないかどうかについていかなる表明も保証も行わず、また一切の責任を負いません。

5. PSF は、ライセンサーまたは Python の他のすべての利用者に対し、Python もしくはその派生物を変更、配布、またはその他の方法で使用したことに起因する一切の偶発的、特別、派生的損害または損失について何らの責任も負いません。PSF がその可能性について知らされていた場合も同様です。

6. 本契約中の諸条件の重大な違反があった場合、本ライセンス契約は自動的に失効します。

7. 本ライセンス契約により、PSF とライセンサーとの間に代理、提携、または合弁の関係が生じることは一切ありません。本ライセンス契約は、ライセンサーあるいは第三者の製品またはサービスを容認または促進する目的で、PSF の商標、もしくは商標の意味での商標名の使用を許可するものではありません。

8. Python を複製、インストール、またはその他の方法で使用するによって、ライセンサーは本ライセンス契約の定める諸条件に従うことに同意するものとします。

BeOpen.com の Python 2.0 の契約条件

BeOpen Python オープンソース・ライセンス契約 バージョン 1

1. 本ライセンス契約は、160 Saratoga Avenue, Santa Clara, CA 95051 に事務所を置く BeOpen.com (以下「BeOpen」) と、ソースまたはバイナリ形式の本ソフトウェアおよびその関連文書 (以下「ソフトウェア」) にアクセスし、またはその他の方法でそれらを使用する個人または組織 (以下「ライセンサー」) との間で交わされます。

2. 本 BeOpen Python ライセンス契約に定める諸条件に従い、BeOpen はライセンサーに対し、単体もしくは派生バージョンのソフトウェアを複製、解析、テスト、公然と実行および/または表示、派生成果物の作成、配布、その他の方法で使用する非独占的な、権利使用料無料の、世界規模のライセンスを付与します。ただし、単体またはライセンサーが作成する派生バージョンのソフトウェアに、BeOpen Python ライセンスを記載することを条件とします。

3. BeOpen は、ソフトウェアを「現状のまま」でライセンシーに提供します。明示的または暗示的に関わらず、BeOpen はいかなる表明も保証も行いません。一例として、BeOpen は商品性または特定の目的への適合性について、あるいはソフトウェアの使用が第三者の権利を侵害しないかどうかについていかなる表明も保証も行わず、また一切の責任を負いません。
4. BeOpen は、ライセンシーまたはソフトウェアの他のすべての利用者に対し、ソフトウェアまたはその派生物を使用、変更、配布したことに起因する一切の偶発的、特別、派生的損害または損失について何らの責任も負いません。BeOpen がその可能性について知らされていた場合も同様です。
5. 本契約中の諸条件の重大な違反があった場合、本ライセンス契約は自動的に失効します。
6. 本ライセンス契約は、法律の抵触条項を除き、米国カリフォルニア州の法律の定めに従い、すべての点でこの法律に従って解釈されます。本ライセンス契約により、BeOpen とライセンシーとの間に代理、提携、または合併の関係が生じることは一切ありません。本ライセンス契約は、ライセンシーあるいは第三者の製品またはサービスを容認または促進する目的で、BeOpen の商標、もしくは商標の意味での商標名を使用することを許可するものではありません。例外として、<http://www.pythonlabs.com/logos.html> から入手できる「!BeOpen Python」のロゴは、当該 Web ページで与えられる許可に従って使用することができます。
7. ソフトウェアを複製、インストール、またはその他の方法で使用するにより、ライセンシーは本ライセンス契約の定める諸条件に従うことに同意するものとします。

PYTHON 1.6.1 に関する CNRI ライセンス契約

1. 本ライセンス契約は、1895 Preston White Drive, Reston, VA 20191 に事務所を置く the Corporation for National Research Initiatives (以下「CNRI」) と、ソースまたはバイナリ形式の Python 1.6.1 ソフトウェアにアクセスし、またはその他の方法でそれらを使用する個人または組織 (以下「ライセンシー」) との間で交わされます
2. 本ライセンス契約に定める諸条件に従って、CNRI はライセンシーに対し、単体もしくは派生バージョンの Python 1.6.1 を複製、解析、テスト、公然と実行および/または表示、派生成果物の作成、配布、その他の方法で使用する非独占的な、権利使用料無料の、世界規模のライセンスを付与します。ただし、単体またはライセンシーが作成する派生バージョンの Python 1.6.1 に、CNRI ライセンス契約および CNRI 著作権の表示、つまり「Copyright (c) 1995-2001 Corporation for National Research Initiatives; All Rights Reserved」を記載することを条件とします。あるいは、CNRI のライセンス契約に代えて、ライセンシーは次の文言を使用することもできます (括弧を除く)。「Python 1.6.1 は、CNRI のライセンス契約の諸条件に従って提供されます。この契約は、Python 1.6.1 と共に、インターネット上で 1895.22/1013 という一意の永続的な識別名 (ハンドルと呼ばれる) を使用して見つけることができます。 また、<http://hdl.handle.net/1895.22/1013> という URL を使用して、この契約をインターネット上のプロキシ・サーバから入手することもできます。」
3. ライセンシーが、Python 1.6.1 またはその一部を基にして、あるいはそれを組み込んで派生成果物を作成する場合で、かつ、ここに規定されているように派生成果物を公開する場合、ライセンシーは Python 1.6.1 に加えた変更の要約を当該成果物に含めることに同意するものとします。

4. CNRI は、Python 1.6.1 を「現状のまま」でライセンサーに提供します。明示的または暗示的に関わらず、CNRI はいかなる表明も保証も行いません。一例として、CNRI は商品性または特定の目的への適合性について、あるいは Python 1.6.1 の使用が第三者の権利を侵害しないかどうかについていかなる表明も保証も行わず、また一切の責任を負いません。

5. CNRI は、ライセンサーまたは Python 1.6.1 の他のすべての利用者に対し、Python 1.6.1 もしくはその派生物を変更、配布、またはその他の方法で使用了ことに起因する一切の偶発的、特別、派生的損害または損失について何らの責任も負いません。CNRI がその可能性について知らされていた場合も同様です。

6. 本契約中の諸条件の重大な違反があった場合、本ライセンス契約は自動的に失効します。

7. 本ライセンス契約は、アメリカ合衆国の連邦知的財産法の定めに従います。これには連邦著作権法も無制限に含まれます。そうした合衆国連邦法が適用されない範囲については、バージニアの法律の抵触条項を除いて、バージニア州の法律の定めに従います。上記にかかわらず、以前に GNU 一般公有使用許諾 (GPL) のもとで配布された分離不可能な素材を組み込んでいる、Python 1.6.1 を基にした派生成果物に関しては、本ライセンス契約の第 4 項、第 5 項、および第 7 項のもとで、またはそれらの各項に関して生じる問題についてのみ、本ライセンス契約にバージニア州の法律が適用されるものとしします。本ライセンス契約により、CNRI とライセンサーとの間に代理、提携、または合併の関係が生じることは一切ありません。本ライセンス契約は、ライセンサーあるいは第三者の製品またはサービスを容認または促進する目的で、CNRI の商標、もしくは商標の意味での商標名の使用を許可するものではありません。

8. 表示されている「受諾する」ボタンをクリックする、または Python 1.6.1 を複製、インストール、またはその他の方法で使用するにより、ライセンサーは本ライセンス契約の定める諸条件に従うことに同意するものとしします。

受諾する

PYTHON 0.9.0 から 1.2 に関する CWI ライセンス契約

Copyright (c) 1991 - 1995, Stichting Mathematisch Centrum Amsterdam, The Netherlands.

無断複写・複製・転載を禁ず

本ソフトウェアおよび関連文書を、目的を問わず無償で使用、複製、変更、および配布することを許可します。ただし、上述の著作権表示をすべての複製に記載すること、上述の著作権表示と本許諾文言の両方を関連文書に記載すること、および、事前に書面で明確な許可を受けることなく、ソフトウェアの配布に関する宣伝や広告に Stichting Mathematisch Centrum または CWI の名前を使用しないことを条件とします。

Stichting Mathematisch Centrum は、商品性および適合性についてのすべての暗黙の保証も含めて、本ソフトウェアに関する何らの保証もしません。契約行為、過失、または不法行為のいずれの状況であろうと、Stichting Mathematisch Centrum は、本ソフトウェアの使用または実行に起因もしくは関連する、使用機会、データ、または利益の喪失により生じる一切の特別、間接的、派生的損害、その他のあらゆる損害について何らの責任も負いません。

SWFObject

SWFObject

Sqlite

Sqlite

ライセンスに関しては [sqlite](http://www.sqlite.org/) のホームページをご覧ください。

<http://www.sqlite.org/copyright.html>

wmi

wmi

(c) Tim Golden <mail@timgolden.me.uk> 5th June 2003 Licensed under the (GPL-compatible) MIT

ライセンス: <http://www.opensource.org/licenses/mit-license.php>

Xmlwrapp 050

Xmlwrapp 050

Copyright (C) 2001-2003 Peter J Jones (pjones@pmade.org)

無断複写・複製・転載を禁ず

ソースコードおよびバイナリ形式による再配布と再利用は、修正の有無に関わらず、以下の条件を満たす場合に許可されます。

- ソースコードの再配布には、明示的または暗示的に関わらず。
- バイナリ形式の再配布には、上述の著作権揭示、この条件リスト、以下の免責文を書類、および / もしくは再配布の際に提供するその他の媒体に含める必要があります。
- 著者またはその貢献者の名前は、書面による事前の許可なしに、このソフトウェアから派生する商品の容認または促進に使用してはいけません。

このソフトウェアは著者または貢献者より、「現状のまま」、市販性および特定目的との適合性などの点を含む、ただしこれに限定されない、明示的または暗示的な保証をすることなく提供されています。いかなる場合でも、損害が生じる可能性について報告を受けていたとしても、契約、厳格責任、または不法行為(過失、その他を含む)であろうと本ソフトウェアの使用により生じる、または責任の法理が適用される直接的、間接的、偶発的、特別、典型的、結果的なあらゆる損害(代用品またはサービスの調達、使用不能、データまたは利益の損失、または事業中断など)を含み、これに限定されない)に対して、著者または貢献者は一切責任を負いません。

Zlib

Zlib

ZLIB データ圧縮ライブラリ

zlib 1.2.3 は、一般データ用の圧縮ライブラリです。全コードがスレッドセーフです。zlib ライブラリで使われているデータ形式は <http://www.ietf.org/rfc/rfc1950.txt> (zlib 形式)、[rfc1951.txt](http://www.ietf.org/rfc/rfc1951.txt) (圧縮形式)そして [rfc1952.txt](http://www.ietf.org/rfc/rfc1952.txt) (gzip 形式)のファイル内の RFCs (Request for Comments) 1950-1952 で紹介されています。これらの文書は <ftp://ftp.uu.net/graphics/png/documents/zlib/zdoc-index.html> から別のフォーマットでも入手可能です。

圧縮ライブラリ関数はすべて `zlib.h` で説明されています(文章を書いてくれるボランティア歓迎します、zlib@gzip.org まで)。ライブラリ使用例は動作テストも兼ねている `example.c` ファイルをご覧ください。また別の例に `minigzip.c` ファイルもあります。圧縮ライブラリ自身は `example.c` と `minigzip.c` を除く全ソースファイルで構成されています。

全ファイルのコンパイルおよびテスト・プログラムの実行は、メイクファイルのトップにある指示に従います。つまりと、一般的には `"make test; make install"` で動作します。Unix は `"/configure; make test; make install"`、MSDOS には `Makefile.msc` という特殊メイクファイルの 1 つを使います。VMS なら `Make_vms.com` を使ってください。

zlib についての質問がありましたら zlib@gzip.org にお送りください。また、Windows DLL バージョンについては Gilles Vollant 宛 info@winimage.com にご質問ください。zlib ホームページは <http://www.zlib.org> か <http://www.gzip.org/zlib/> です。不具合を報告する前に、このサイトかまたは違う方法でもいいので自分が zlib 最新バージョンを持っているかどうか確認したうえで、その最新バージョンを取得した後もまだその不具合が存在するか確認してください。

「お願い」救済を求める前に [zlib FAQ http://www.gzip.org/zlib/zlib_faq.html](http://www.gzip.org/zlib/zlib_faq.html) をお読みください。

1997 年 1 月 Mark Nelson markn@ieee.org は米 Dr. Dobb's Journal 誌で zlib について論文を書きました。その論文のコピーは以下より入手できます。

<http://dogma.net/markn/articles/zlibtool/zlibtool.htm>

バージョン 1.2.3 の変更点は `ChangeLog` に書かれています。

非サポートの第三者の寄稿が `"contrib"` ディレクトリにあります。

zlib の Java の実装については以下の Java Development Kit (Java 開発キット) より入手可能です。

<http://java.sun.com/j2se/1.4.2/docs/api/java/util/zip/package-summary.html>

詳細は `zlib` ホームページ <http://www.zlib.org> を見てください。

Paul Marquess pmqs@cpan.org が書いた Perl の zlib へのインターフェースは以下 CPAN (Perl 総合アーカイブネットワーク) サイトからご覧になれます。

<http://www.cpan.org/modules/by-module/Compress/>

A. M. Kuchling amk@amk.ca が書いた Python の zlib へのインターフェースは、Python 1.5 と最新バージョンから入

手可能です。以下をご覧ください。

<http://www.python.org/doc/lib/module-zlib.html>

Andreas Kupries<a.kupries@westend.com>が書いた TCL の zlib へのバインディングは http://www.oche.de/~akupries/soft/trf/trf_zip.html から入手可能です。

Gilles Vollant<info@winimage.com>によって zlib のトップに書かれた zip フォーマット内の読込用、書込み用の試験的パッケージ・ファイルは zlib の contrib/minizip ディレクトリで入手可能です。

ターゲット OS 用の注釈

- Windows DLL バージョンは win32/DLL_FAQ.txt をご覧ください。
- 64 ビット Irix において deflate.c はいくつかの最適化オプションなしにコンパイルされなければなりません。ひとつに-O をつけた時 libpng テストは失敗します。テストは 32 ビットモードで動作します(-n32 コンパイラ・フラグ使用)。そのコンパイル・バグはすでに SGI に報告されました。
- zlib は OSF/1 2.1 下の DEC 3000/300LX 上の gcc 2.6.3 では動作しません。cc オプションでコンパイルされた時は動作します。
- アルファサーバーの Digital Unix 4.0D(前版 OSF/1)で、cc オプション -std1 は gzprintf を正確に動作させるために必要です。
- zlib は /bin/cc のいくつかのバージョンの HP-UX 9.05 で動作しません。他のコンパイラで動作します。コンパイラのチェックには "make test"を使用します。
- gzdopen は RISCOS、BEOS といくつかの Mac コンパイラでサポートされません。
- PalmOs は <http://palmzlib.sourceforge.net/>を見てください。
- Mac OS X で共有、つまりダイナミックライブラリをビルドするときライブラリは、テスト前にインストール ("make test"の前に"make install"して)されていなければなりません。その理由は、ライブラリの場所がライブラリ内に指定書きされているからです。

謝辞

zlib で使われている deflate フォーマットは Phil Katz が定義しました。deflate と zlib の仕様は L. Peter Deutsch が記述しています。zlib の不具合を報告してくれた人たち、さまざまな改善を提案してくれた人たちに感謝します。この場を借りて多くの皆様への感謝をお伝えします。

著作権表示

(C) 1995-2004 Jean-loup Gailly and Mark Adler

当該ソフトウェアは、「現状のまま」、明示的または暗示的な保証をすることなく提供されています。当該ソフトウェアの使用により生じたいかなる損害に対しても著者は一切の責任を負いません。

当該ソフトウェアの使用については制約に従う限り、商用アプリケーションを含め、どんな目的でも自由に変更および配布が許可されています。

1. 元となるソフトウェアについて誤った記述をしてはいけません。元のソフトウェアの著作権を主張してはいけません。本ソフトウェアを製品に含める場合は、その製品の文書にその旨を明記してください。(必須ではない)

2. 正版については、そのことを明記しなければなりません。元のソフトウェアであるかのような誤った記述をしてはいけません。

3. この注釈はソース配布時に削除または変更しないでください。

Jean-loup Gailly

Mark Adler

jloup@gzip.org

madler@alumni.caltech.edu

御社の製品に zlib ライブラリを使用される際、非常に長い法的文書に署名をする要求を当社に送付しないようご協力をお願いします。ソースは自由に提供されていますが保証は全くありません。ライブラリは全て Jean-loup Gailly と Mark Adler による記述です。第三者のコードは含まれていません。

変更したソースを再配布する際、変更点を文書化した ChangeLog 履歴情報ファイルを含めるようお願いいたします。変更バージョンを配布する際の注意事項は FAQ をお読みください。